

# 人権を学ぶ

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数

講 ・ 2 単位 ・ 15 回

[学修準備時間 60]

教員

黒田 浩継

年次・学期

1 年 ・ 前

関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連

- DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性
- DP2: 知識・技術 © DP4:人権・共感

## 授業の目的・内容

### 【授業の目的と概要】

《目的》現代社会に存在する様々な人権問題の具体的な事例を当事者の視点から考察し、人権を尊重する考え方の重要性・必要性について理解を深める。

・人権問題を自らの生き方につなげ、人権を尊重する人間として他者との関わり方の大切さについて考え、差別のない社会の実現に向けて行動できる実践力を身に付けることをねらいとする。

《概要》「子どもの人権」を中心に、保育者に必要な最低限度の人権に関わる知識を学習する。学習に当たっては当事者の視点に基づいた教材を活用し、多様な考え方があつたことを体験できる参加体験型ワークショップ等を取り入れる。

### 【到達目標】

・人権に関わる様々な問題についての理解を深め、課題解決に向けた実践力を身に付ける。  
・様々な人権問題を「自分ごと」としてとらえ、将来、保育者として子どもやその保護者と接する際に役立つ知識と力を身に付ける。

## 履修のルール

### 【履修のルール】

- ・ 本学の1 回生を対象とした選択必修科目
- ・ 2 回生、高野山大学の学生も希望すれば受講できる。

### 【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】

授業中に適宜指示するが、予習については授業計画を参考に最初の授業で配布する「ゆまにてなにわ」を事前に読んでおく。

### 【課題に対するフィードバックの方法】

[オフィスアワー]:

## 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	60	筆記試験を実施する(配布資料、ノート持ち込み可)。
期末レポート	0	
その他	40	受講態度、授業への参加・取り組み姿勢、「授業振り返りシート」の提出状況

## 授業計画

- |                                |                                 |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1. ガイダンス「人権を学ぶ」で何を学ぶのか?        | 9. 障がい者の人権と合理的配慮—ともに生きる社会とは     |
| 2. 「人権」ってなに?—誰もが幸せに生きていくために—   | 10. いじめとハラスメント(セクハラ、パワハラ)       |
| 3. 子どもの人権Ⅰ「子どもの権利条約—子どもは権利の主体」 | 11. SDGsと人権Ⅰ「子どもの貧困問題」          |
| 4. 子どもの人権Ⅱ「児童虐待と体罰」            | 12. SDGsと人権Ⅱ「ジェンダーと男女平等教育」      |
| 5. ちがいを豊かさにⅠ「在日韓国朝鮮人の人権問題」     | 13. SDGsと人権Ⅲ「性の多様性—性的マイノリティの人権」 |
| 6. ちがいを豊かさにⅡ「コリアタウンフィールドワーク1」  | 14. 差別のない社会をめざしてⅠ「アサーティブな自己表現」  |
| 7. ちがいを豊かさにⅢ「コリアタウンフィールドワーク2」  | 15. 差別のない社会をめざしてⅡ「子どもたちの人権尊重」   |
| 8. ちがいを豊かさにⅣ「多文化共生社会の実現に向けて」   |                                 |

### 【教科書】

講義内で配布する資料(「ゆまにてなにわ」、プリント)

### 【参考書】

授業中に適宜紹介する

## アクティブラーニングへの取り組み

<input checked="" type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input checked="" type="checkbox"/> 反転授業	<input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/> グループワーク
<input checked="" type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向アンケート	その他:

## 実務経験

大阪府教育庁、大阪府教育センターにおいて人権教育を担当。現在、大阪府の人権に関わる委員会の委員(大阪府研究調査開発事業)を務める。この経験をもとに保育者に必要な人権に関する基本的内容について指導する。

# ダンス入門

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
講 ・ 2 単位 ・ 15 回

[学修準備時間 60]

教員	年次・学期	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
西村 真子	1年・前	- DP1:情熱・使命感 ◎ DP2:知識・技術	- DP3:探究・主体性 - DP4:入権・共感

## 授業の目的・内容

<b>【授業の目的と概要】</b> 基本的なステップ、様々なジャンルのダンスを学び、保育で活用できる基礎力を身につける。パフォーマンス作りの中で、幼児の様々な表現力を豊かにするための曲選び(曲編集)、振り付け、構成作りを学ぶ。またダンスを通して幼児の団結や頑張る力を身につけられる様な指導を学ぶ。	<b>【到達目標】</b> ・保育に必要なダンスの基礎力を身につける。 ・保育者になる学生自身がダンスを楽しみ、幼児の年齢に合ったパフォーマンス作品を考える。 ・課題作品を通して、保育現場で活用出来る創作力や表現力を身につける。
---	---

## 履修のルール

<b>【履修のルール】</b> グループワーク等に積極的に参加すること。	<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b> ダンスに必要な基礎ステップを理解、身体に落とし込むこと。発表の際には、自分の感情・表現もできる様にする。 <b>【課題に対するフィードバックの方法】</b> 実技ミニチェックでは、その場で各自に応じた指導を行う。もしくは課題プリントへ各自コメントし、返却する。 【オフィスアワー】:昼休み、空き時間で対応
---	---

## 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	50	実技試験(基礎力、表現力、協調性、工夫力、正確性)
期末レポート	0	
その他	50	授業や課題の参加、取り組み姿勢

## 授業計画

- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 1. 幼児ストレッチ・基礎体力の作り方  | 9. パフォーマンス作り②振り付け      |
| 2. 幼児基礎ステップ①簡単な足の動き  | 10. パフォーマンス作り③フォーメーション |
| 3. 幼児基礎ステップ②簡単な足の動き  | 11. 邦楽でダンス振り付け、幼児への伝え方 |
| 4. ダンスの種類～チアダンス～     | 12. 洋楽でダンス振り付け、幼児への伝え方 |
| 5. ダンスの種類～HIPHOP～    | 13. 幼児ダンス作品作り(グループ)    |
| 6. ダンスの種類～KPOP～      | 14. 幼児ダンス作品作り(グループ)    |
| 7. ダンスの種類～JAZZ～      | 15. 作品発表会              |
| 8. パフォーマンス作り①曲選び、曲編集 |                        |

<b>【教科書】</b>	<b>【参考書】</b>
--------------	--------------

## アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	○ その他:

## 実務経験

幼小中ダンス指導者、高等学校ダンス部外部指導者、ダンス教室設立、プロ野球チアリーダー

<b>幼児と環境</b>		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・8回 [学修準備時間 30]	
教員 柳原 高文	年次・学期 1年・後	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b> 領域(環境)のねらいと内容について理解し、幼児と身近な環境との関わりの意義や自然認識の発達について学ぶ。幼児は、人や社会、自然など様々な環境に取り巻かれて育つことから、幼児の思考、自然認識の発達や、幼児と環境との関わりの意義、現代的な課題などについて学ぶ。		<b>【到達目標】</b> 1) 幼稚園教育要領における保育内容(環境)のねらいと内容を理解し、説明できる。 2) 身近な地域環境の現状と課題を踏まえながら、幼児と環境との関わりの意義や、自然認識の発達について理解する	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b> 予習：次回までに予習すべき内容と準備物について授業内で指示する。 復習：教科書や配布プリント等の内容の整理、演習授業では実践の振り返りを行うこと。 <b>【課題に対するフィードバックの方法】</b> 授業内で解説する。また、実践の振り返りについては個別に添削を行う。 【オフィスアワー】:水の昼休み	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	70	筆記試験を行う。	
期末レポート	0		
その他	30	授業への関心・意欲・態度	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション/野外ゲーム	9.		
2. 幼児と環境とは/キャンパスの自然観察	10.		
3. 自然現象の不思議とは	11.		
4. 森のようちえんとは	12.		
5. ちよたんの森での園児との活動1	13.		
6. ちよたんの森での園児との活動2	14.		
7. 生き物との関わり	15.		
8. 全国の森のようちえん			
<b>【教科書】</b> 適時資料配布		<b>【参考書】</b>	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	○	反転授業	○
学生によるプレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
		ディスカッション、ディベート	○
		双方向アンケート	○
		グループワーク	○
		その他:	○
<b>実務経験</b>			
森林インストラクター。この経験をもとに保育の基本を指導する。			

# 幼児と言葉

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数

演 ・ 1 単位 ・ 8 回

[学修準備時間 30]

教員	年次・学期	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
寄 ゆかり,西元 咲文	1年・前集	[幼必][保必]	- DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

## 授業の目的・内容

<b>【授業の目的と概要】</b>	<b>【到達目標】</b>
三法令(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領)に示された領域「言葉」のねらいおよび内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、言葉の育つ道筋と保育者のかかわりや役割について知る。	1)保育の基本等を踏まえ領域「言葉」のねらいおよび内容を理解する。 2)乳幼児が言葉を獲得していく発達過程を理解する。 3)言葉によって育まれる力を理解し、それらを育むための保育者の指導や支援のあり方について検討することができる。

## 履修のルール

<b>【履修のルール】</b>	<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b>
	予習：授業計画に記載されている内容に添って事前に教科書を読んでおくこと。 復習：教科書や配布資料を再読し、授業内容を整理しておくこと。演習授業では振り返りを行うこと。
	<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>
	授業内で解説する。また、実践の振り返りについては個別に添削を行う。 【オフィスアワー】:授業後質問を受け付ける。

## 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	授業への参加状況(ペアワーク、グループワーク)、ミニレポート、受講態度による評価

## 授業計画

1. オリエンテーション/領域「言葉」とは	9.
2. 人間と言葉	10.
3. 乳幼児期の言葉の獲得	11.
4. 言葉の豊かさ	12.
5. 言葉遊び	13.
6. 児童文化財(おはなし・紙芝居)	14.
7. 児童文化財(絵本とは何か・絵本と子ども)	15.
8. 模擬保育:児童文化財を活用した保育	

<b>【教科書】</b>	<b>【参考書】</b>
鳥見塚昭久/小倉直子『保育学生のための「幼児と言葉」言葉 授業中に適宜紹介する。業指導法』ミネルヴァ書房 ¥2,640(税込)	

## アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

## 実務経験

公立の幼稚園教諭、また、海外の日本人学校の幼稚園教諭として勤務。  
この経験をもとに保育の基本を指導する。

幼稚園教育科 1年次 講義要綱

幼児と表現 講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
演・1単位・8回  
【学修準備時間 30】

教員 年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連  
大浦 知加 1年・前 [幼必][保必] - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性  
◎ DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

<p><b>【授業の目的と概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三法令（幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解する。</li> <li>・幼児の表現の特徴を理解し、その発達をサポートする環境構成や技術を実践的に学ぶ。</li> <li>・さまざまな保育教材を通した表現あそびを体験し、その表現方法を理解する。</li> </ul>	<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「表現」の指導に関する、幼児が表現活動を行うための支援の在り方を理解し、知識・技術・表現力を身につける。</li> <li>・幼児の表現の過程と特徴を理解して、領域「表現」を捉え、その指導を展開できる。</li> <li>・保育教材を通した、幼児が表現活動を行うための支援の方法を理解し、知識・技術・表現力を身につける。</li> </ul>
---	--

**履修のルール**

<p><b>【履修のルール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動きを伴うため、動きやすい服装と靴。</li> <li>・配布する楽譜類はスケッチブックに貼り保存。</li> <li>・スケッチブック・フェイスタオル持参。</li> <li>・創作時は「ホチキス、カッター、のり、マジック、色鉛筆」等を持ってくる。</li> </ul>	<p><b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三法令の領域「表現」の内容を讀んでおく。</li> <li>・授業内容を振り返り、理解を深める。</li> <li>・学習した内容の中で興味・関心を持った点を自主的に深める。</li> </ul> <p><b>【課題に対するフィードバックの方法】</b></p> <p>その場で、課題に応じた指導を返したり、補足説明をする。また、随時メールやClassroomを活用して行う。 [オフィスアワー]:火～金曜（研究室）</p>
---	--

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	40	実技試験（パネルシアターオペレッタ発表）
期末レポート	0	
その他	60	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オペレッタ創作への取り組み状況</li> <li>・授業内ミニレポート、振り返りレポート</li> <li>・オペレッタ発表への取り組み状況（意欲・片付け含む）</li> </ul> 上記を総合的に評価する。

**授業計画**

1. 幼児の表現における発達の理解/身近なモノと関わり捉えた知覚をオノマトペや色、形で表現する	9.
2. 幼児の表現する過程を体験し感覚特性を理解する/絵本リトミック、身ぶり表現	10.
3. 幼児の表現を支える効果音、手作り楽器から表現遊びを創作する	11.
4. コミュニケーション的要素を取り入れた言葉と音による表現	12.
5. 総合的表現発表の骨組みを考える（こどもたちに伝えるための表現方法について、グループ内でディスカッションを行い最良の方法を目指す）（パネルシアター制作を含む）	13.
6. コミュニケーションとしての表現（発表を支える児童文化財の特性を知り、創作する）（パネルシアター制作を含む）	14.
7. コミュニケーションとしての表現（発表を支える音や身ぶり表現を探求する）（パネルシアターオペレッタ）	15.
8. コミュニケーションとして表現する方法をかたちにする（グループワーク発表）	

<p><b>【教科書】</b></p> <p>編著：伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』ドレミ楽譜出版¥1,980(税込)</p> <p>編著：木村鈴代『新たなしい子どものうたあそび一現場で活かせる保育実践—第2版』同文書院¥2,420 (税込)</p> <p>スケッチブック¥330(税込)</p> <p>※すべて、他の音楽・表現授業と共有、2年間継続して使用します。</p>	<p><b>【参考書】</b></p> <p>平成29年度 幼稚園教育要領（最新版）、保育所保育指針（最新版）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版） 適宜授業で紹介する。</p>
--	--

**アクティブラーニングへの取り組み**

○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他：学生による創作表現・発表

**実務経験**

保育園・こども園・小学校・中学校・高校、専門学校音楽講師勤務の経験と、現場保育者や教員への音楽指導経験を生かした指導法を展開する。また長年、0歳～大人までのピアノ指導や親子リトミック・音楽遊び指導を行い、和楽器・管弦打楽器こどもオーケストラや舞台イベントを主催・指導。自身も和太鼓やピアノによる舞台表現家である。

表現技術(ピアノ I)		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 演・1単位・15回 [学修準備時間 15]																	
教員 寄 ゆかり,他	年次・学期 1年・前	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感																
<b>授業の目的・内容</b>																			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>																	
<p>幼児の様々な表現方法を豊かにするための表現遊びや歌唱、弾き歌いのための伴奏方法、またそれに必要な音楽理論などを総合的に学ぶ。</p> <p>また、ピアノの基本的な演奏法を学び、その技術を向上させることにより、保育で活用できる演奏(主に幼児教育現場での「弾き歌い」ができる)力を身につける。</p>		<p>幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解し、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育に必要なピアノの演奏力を身につける。</li> <li>・保育現場で使われる幼児曲等を知り、歌える。</li> <li>・保育現場で行われる乳幼児の手遊びができる。</li> </ul>																	
<b>履修のルール</b>																			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b>																	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・イヤホンは必ず持参すること。</li> <li>・ピアノ演奏を行うため、必ず爪は短くし、マニキュア等不要なものは取っておくこと。</li> </ul>		<p>ピアノや手遊びなど、演習は日々の練習の積み重ねが大変、重要です。授業時に学んだ予習方法をもとに、できるだけ毎日、練習するようにしてください。</p> <p><b>【課題に対するフィードバックの方法】</b></p> <p>実技ミニチェックでは、その場で各自に応じた指導を返している。また、楽典、レポートなどはClassroom等で各自の課題をコメントし、指導に活かしている。</p> <p><b>【オフィスアワー】</b>:お昼休み等(研究室)</p>																	
<b>評価基準・評価方法</b>																			
種類	割合(100%)	基準・方法																	
期末試験	50	実技試験(日常の授業での取り組み状況も含んだ演奏試験)																	
期末レポート	0																		
その他	50	授業内実技ミニテスト(歌唱、手遊び)の評価及び、課題(楽典、レポート)の取り組み状況等																	
<b>授業計画</b>																			
<table border="0"> <tr> <td>1. 領域「表現」のねらいからみる歌唱、鍵盤演奏力の必要性</td> <td>9. 季節の曲の歌唱(春夏)とコード奏/インザッツのタイミングを学ぶ</td> </tr> <tr> <td>2. 保育現場での音楽遊び/保育に用いるコード練習(C:)</td> <td>10. 夏の歌唱曲を子どもたちと歌う。曲想に関する音楽理論の復習</td> </tr> <tr> <td>3. 保育現場での手遊び、身体遊び/保育に用いるコード練習(C:, G:)</td> <td>11. 秋の歌唱曲と手遊びを知る</td> </tr> <tr> <td>4. 季節の曲の歌唱(春)とコード奏(C:G:F:)弾き歌い</td> <td>12. 手遊びの経験(実習の時期に合わせた)</td> </tr> <tr> <td>5. コードと歌。演奏に関する音楽理論の復習</td> <td>13. 秋の歌唱曲の弾き歌い(イントロ・インザッツ・エンディングまで)</td> </tr> <tr> <td>6. 春の歌唱曲を子どもたちと歌う/様々な伴奏形を知る</td> <td>14. 長調カデンツを用いたコード奏と伴奏形の復習</td> </tr> <tr> <td>7. 保育で使用するコードを使ってイントロ、エンディングをつける</td> <td>15. 夏秋(実習に合わせた)の弾き歌いと手遊び。音楽理論の復習</td> </tr> <tr> <td>8. コードを用いた弾き歌いと様々な伴奏形の体験</td> <td></td> </tr> </table>				1. 領域「表現」のねらいからみる歌唱、鍵盤演奏力の必要性	9. 季節の曲の歌唱(春夏)とコード奏/インザッツのタイミングを学ぶ	2. 保育現場での音楽遊び/保育に用いるコード練習(C:)	10. 夏の歌唱曲を子どもたちと歌う。曲想に関する音楽理論の復習	3. 保育現場での手遊び、身体遊び/保育に用いるコード練習(C:, G:)	11. 秋の歌唱曲と手遊びを知る	4. 季節の曲の歌唱(春)とコード奏(C:G:F:)弾き歌い	12. 手遊びの経験(実習の時期に合わせた)	5. コードと歌。演奏に関する音楽理論の復習	13. 秋の歌唱曲の弾き歌い(イントロ・インザッツ・エンディングまで)	6. 春の歌唱曲を子どもたちと歌う/様々な伴奏形を知る	14. 長調カデンツを用いたコード奏と伴奏形の復習	7. 保育で使用するコードを使ってイントロ、エンディングをつける	15. 夏秋(実習に合わせた)の弾き歌いと手遊び。音楽理論の復習	8. コードを用いた弾き歌いと様々な伴奏形の体験	
1. 領域「表現」のねらいからみる歌唱、鍵盤演奏力の必要性	9. 季節の曲の歌唱(春夏)とコード奏/インザッツのタイミングを学ぶ																		
2. 保育現場での音楽遊び/保育に用いるコード練習(C:)	10. 夏の歌唱曲を子どもたちと歌う。曲想に関する音楽理論の復習																		
3. 保育現場での手遊び、身体遊び/保育に用いるコード練習(C:, G:)	11. 秋の歌唱曲と手遊びを知る																		
4. 季節の曲の歌唱(春)とコード奏(C:G:F:)弾き歌い	12. 手遊びの経験(実習の時期に合わせた)																		
5. コードと歌。演奏に関する音楽理論の復習	13. 秋の歌唱曲の弾き歌い(イントロ・インザッツ・エンディングまで)																		
6. 春の歌唱曲を子どもたちと歌う/様々な伴奏形を知る	14. 長調カデンツを用いたコード奏と伴奏形の復習																		
7. 保育で使用するコードを使ってイントロ、エンディングをつける	15. 夏秋(実習に合わせた)の弾き歌いと手遊び。音楽理論の復習																		
8. コードを用いた弾き歌いと様々な伴奏形の体験																			
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>																	
<p>編著：伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』ドレミ楽譜出版 ¥1,980(税込)</p> <p>編著：木村鈴代『たのしい子どものうたあそび』同文書院 ¥2,200+税</p> <p>編著：神原雅之ほか『幼児のための音楽教育』教育芸術社 ¥2,000+税</p> <p>(※冊数が多いですが、2年間使用します)</p>		<p>平成29年度 幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)</p>																	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>																			
PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク																
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:																
<b>実務経験</b>																			
<p>音楽教室においては、3歳児から70代までのピアノ、エレクトーンでの鍵盤指導及び管楽器、打楽器指導を中心としたアンサンブル教育も行う。また現役保育者に対する保育内容に関する実技講習などの研修を多く行っている。</p>																			

表現技術(ピアノ II) 講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
演 ・ 1 単位 ・ 15 回  
[学修準備時間 15]

教員	年次・学期	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
寄 ゆかり, 他	1 年 ・ 後	[ <b>幼必</b> ][ <b>保選</b> ]	- DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

<p><b>[授業の目的と概要]</b></p> <p>幼児の様々な表現方法を豊かにするための表現遊びや歌唱、弾き歌いのための伴奏方法、またそれに必要な音楽理論などを総合的に学ぶ。 また、表現技術(ピアノ I)で学んだピアノの基本的な演奏法については、さらにその技術を向上させることにより、保育で活用できる演奏(主に幼児教育現場での「弾き歌い」ができる)力を身につける。</p>	<p><b>[到達目標]</b></p> <p>幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解し、 ・保育に必要なピアノの演奏力を身につける。 ・保育現場で使われる幼児曲等を知り、歌える。 ・保育現場で行われる乳幼児の手遊びができる。</p>
---	--

**履修のルール**

<p><b>[履修のルール]</b></p> <p>・イヤホンは必ず持参すること。 ・表現技術(ピアノ I)の単位修得済みであること。 ・ピアノ演奏を行うため、必ず爪は短くし、マニキュア等不要なものは取っておくこと。</p>	<p><b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b></p> <p>ピアノは日々の練習の積み重ねが大変、重要です。授業時に学んだ予習方法を元に、必ず毎日、ピアノに触れて練習するようにしてください。</p> <p><b>[課題に対するフィードバックの方法]</b></p> <p>実技ミニチェックでは、その場で各自に応じた指導を返している。また、楽典、レポートなどはClassroom等で各自の課題をコメントし、指導に活かしている。 【オフィスアワー】:お昼休み等(研究室)</p>
--	---

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	50	実技試験(日常の授業での取り組み状況も含んだ演奏試験)
期末レポート	0	
その他	50	授業内実技ミニテスト(歌唱、手遊び)の評価及び、課題(楽典、レポート)の取り組み状況等

**授業計画**

1. 領域「表現」のねらいからみるピアノの弾き歌い、カデンツ練習	9. 季節の曲の歌唱(冬)とコード奏/伴奏の違いによる曲のイメージ
2. 保育現場での音楽遊び/保育に用いるコード練習(c:)	10. 冬の歌唱曲を子どもたちと歌う
3. 保育現場での手遊び、身体遊び/保育に用いるコード練習(c:, d:, a:)	11. 実習で弾き歌いするために必要な力
4. 季節の曲の歌唱(秋)とコード奏、弾き歌い	12. テンポ、曲想をつかみながら、秋冬の歌唱曲を弾き歌いする。
5. コードを使って歌の楽しさを味わう/簡単な伴奏で流れを止めない練習	13. カデンツを用いたコード奏と伴奏形の復習(春、夏の曲)
6. 秋の歌唱曲を子どもたちと歌う/伴奏の違いによる曲のイメージ	14. 四季を通した弾き歌いのレパートリーを増やす
7. 保育で使用するコード練習(6つの調)	15. 子どもと歌を楽しむために必要な演奏力
8. コードを用いた弾き歌いと様々な伴奏形	

<p><b>[教科書]</b></p> <p>編著:伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』ドレミ楽譜出版 ¥1,980(税込) 編著:木村鈴代『たのしい子どものうたあそび』同文書院 ¥2,200+税 編著:神原雅之ほか『幼児のための音楽教育』教育芸術社 ¥2,000+税 ※すべて表現技術(ピアノ I)の教科書を継続して使用します。</p>	<p><b>[参考書]</b></p> <p>平成29年度 幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)</p>
--	---

**アクティブラーニングへの取り組み**

PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> 反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	<input type="radio"/> 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

**実務経験**

音楽教室においては、3歳児から70代までの幅広い層にピアノ、エレクトーンでの鍵盤指導及び管楽器、打楽器指導を中心としたアンサンブル教育も行う。また現役保育者に対する保育内容に関する実技講習などの研修を多く行っている。

表現技術(造形 I)		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・15回 [学修準備時間 15]	
教員 東 景子	年次・学期 1年・前	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
[授業の目的と概要] この授業では、高校で美術を受講していた有無に関わらず、皆さんが保育者になるまでに身につけてほしい造形的な発想や構想力、技能や表現力を想定して実施する。具体的には、素材を活かす作品作りや、直接描く絵画とは違う、版画表現を取り入れた間接的な表現の習得、季節や行事に合った作品作りを取り入れて楽しむ。		[到達目標] 1.課題作品の演習を通して、素材や技法に対する理解を深め、表現や工夫する力を習得する事を目的とする。 2.保育者になる学生自身が造形表現を楽しみ、保育現場でも活用出来る様に意識して取り組む事が出来る。	
<b>履修のルール</b>			
[履修のルール] 特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装かエプロン等を持参の上受講する事。		[予習・復習の方法「自主学习ガイド」] 必要な道具と素材は告知するので、必ず事前に準備し持参する事。各課題について確実に仕上げ、鑑賞会の際には、作品制作意図も説明できる様にする事。 [課題に対するフィードバックの方法] 作品鑑賞会の際にコメントをする、もしくは、課題とプリント返却時にメッセージを添える等の方法で行う。 [オフィスアワー]:月火水金の昼休み、図工室か研究室	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	準備物、制作課題提出、作品制作意図のまとめプリントで評価する。	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション、造形表現の意義 持ち物・準備物の確認 2. バラバルーンで遊ぼう！～身体で風を感じて～ 3. 子どものなりたいたいものに変身！～素材を活かす～① 4. 子どものなりたいたいものに変身！～素材を活かす～② 5. 子どものなりたいたいものに変身！～素材を活かす～③完成-鑑賞会 6. 感覚を楽しむ！①紙粘土遊び 7. 表現技法の紹介①はじき絵 8. 表現技法の紹介②スクラッチ	9. 表現技法の紹介③スパッタリング 10. 道具を扱う①針金の造形 11. 版画の紹介①粘土でロール版画遊び 12. グループワーク-大きな壁面制作- 13. グループワーク-大きな壁面制作- 14. グループワーク-大きな壁面制作- 15. 壁面制作の完成-作品鑑賞会-		
[教科書] 横英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 2,300円+税 必要に応じてプリント資料を配布する。 ○サクラクレパス マット水彩12色12mlポリ MW12 PE、○サクラクレパス太巻き16色、○サクラクレパス NR10 [画筆ネオセブロン 丸筆10号]、○フエキ 幼児用でんぶん糊 どうぶつおり 3号 160g、○サクラクレパス 水性ペン ビグマックス 細字 8色 ZPK-S8 ●ゼブラ油性マーカー マッキー P-M0-120-MC-BK (昨年と同様) +○協和紙工 バラエティ おりがみ15cm角(80枚)、○		[参考書]	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他:
<b>実務経験</b>			
小中学校の図画工作・美術(非常勤講師・常勤講師)と併設の特別支援学級の美術、社会人向けの生涯学習(木版画教室)講師			



表現技術(造形Ⅱ)		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・15回 [学修準備時間 15]	
教員 東 景子	年次・学期 1年・後	関連資格・必修/選択 [幼必][保選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
前期の表現技術(造形Ⅰ)に続き、皆さんが保育者になるまでに身につけてほしい造形的な発想や構想力、技能や表現力を想定して実施する。具体的には、素材を活かす作品作りや、季節や行事に合った作品作りを取り入れて楽しむ。		1.課題作品の演習を通して、素材や技法に対する理解を深め、表現や工夫する力を習得する事を目的とする。 2.保育者になる学生自身が造形表現を楽しみ、保育現場でも活用出来る様に意識して取り組む事が出来る。	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装かエプロン等を持参の上受講する事。		必要な道具と素材は告知するので、必ず事前に準備し持参する事。各課題について確実に仕上げ、鑑賞会の際には、作品制作意図も説明できる様にする事。 <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> 作品鑑賞会の際にコメントをする、もしくは、課題とプリント返却時にメッセージを添える等の方法で行う。 [オフィスアワー]:月火水金の昼休み、図工室か研究室	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	0	準備物、制作課題提出、作品制作意図のまとめプリントで評価する。	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション 折り紙を使って	9. 冬の造形①平面制作 想像の世界を描く2		
2. 版遊びの紹介②マープリング	10. 冬の造形①平面制作 想像の世界を描く3		
3. マープリングの応用 コラージュ制作	11. 冬の造形②立体制作 シンプルな形から1		
4. 版遊びの紹介③ステンシル	12. 冬の造形②立体制作 シンプルな形から2		
5. 表現技法の紹介④フロッタージュ	13. 「表現を活かす基礎技法」表紙制作1		
6. 表現技法の紹介⑤ドリッピング	14. 「表現を活かす基礎技法」表紙制作2		
7. 野外活動-落ち葉アート-	15. 作品のまとめ、振り返り		
8. 冬の造形①平面制作 想像の世界を描く1			
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
榎英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 2,300円+税			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:
<b>実務経験</b>			
小中学校の図画工作・美術(非常勤講師・常勤講師)と併設の特別支援学級の美術、社会人向けの生涯学習(木版画教室)講師			

保育内容の指導法(環境)

講義/演習/実技実習・単位数・回数

演・1単位・8回

[学修準備時間 30]

教員	年次・学期	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
柳原 高文	2年・前	[幼必][保必]	- DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

授業の目的・内容

【授業の目的と概要】

保育者として、自然への気付きを育み、領域「環境」の内容・ねらいを理解し、保育の構想・指導方法を身につける。幼児の発達段階を踏まえた具体的な指導に加えて、地域の自然・文化の特性を活かした指導ができるように講義を行う。幼児の発達を理解し、環境とかがわる力を育てる保育内容から、内面を育てる豊かな環境の構成ができるようにする。

【到達目標】

- 1) 幼稚園教育要領における領域「環境」のねらいや内容を理解し説明できる。
- 2) 領域「環境」のねらいと内容に基づき、指導上の留意点について理解できる。
- 3) 幼児の発達を理解し、具体的な保育を構想できる。
- 4) 身近な地域環境の現状と課題を踏まえながら、保育構想の向上に取り組む。

履修のルール

【履修のルール】

【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】

予習：次回までに予習すべき内容と準備物について授業内で指示する。  
復習：講義授業では配布プリント等の内容の整理、演習授業では実践の振り返りを行うこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で解説する。また、実践の振り返りについては個別に添削を行う。  
[オフィスアワー]:水の昼休み

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	70	筆記試験を行う。
期末レポート	0	
その他	30	授業への関心・意欲・態度

授業計画

- |                             |     |
|-----------------------------|-----|
| 1. オリエンテーション/キャンパスの野草観察     | 9.  |
| 2. 森で行う保・幼・小接続とは/キャンパスの樹木観察 | 10. |
| 3. 幼児のアクティブ・ラーニングとは         | 11. |
| 4. 野外ゲーム                    | 12. |
| 5. 幼児のサイエンス・プロセス・スキルとは      | 13. |
| 6. 図形に親しむ                   | 14. |
| 7. ネイチャークラフト                | 15. |
| 8. 自然保育ふりかえり                |     |

【教科書】

適時資料を配布する。

【参考書】

内角府・文部科学省・厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 ¥500+税

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)		反転授業		ディスカッション、ディベート	○	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		双方向アンケート		その他:

実務経験

森林インストラクター。この経験をもとに保育の基本を指導する。

保育内容の指導法(言葉 I)		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・8回 [学修準備時間 30]	
教員 杉田 律子	年次・学期 2年・前	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
領域「言葉」の指導基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を修得することを目的とする。		1)言葉の意義や機能について理解する。 2)言葉に対する感覚を豊かにする実践方法を身につける。 3)乳幼児にとっての児童文化財の意義について理解する。 4)さまざまな児童文化財の特性について理解し、活用する力を身につける。	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
・ペアワークやグループワーク等に積極的に参加すること。 ・配布プリント等をまとめるファイルまたはノートを準備しておくこと		予習：次回までに取り組むべき内容や課題について授業内で指示する。 復習：講義授業では配布プリント等の内容の整理、演習授業では実践の振り返りを行うこと。	
<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>			
授業内で講評を行う。実践の振り返りについては個別に評価を行う。 【オフィスアワー】:授業の前後やリフレクションシート等を活用して質問を受け付ける。			
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	50	到達目標1~4) に対応した理解度を問う筆記試験を行う。	
期末レポート	0		
その他	50	授業内課題、課題発表	
<b>授業計画</b>			
1.	オリエンテーション/言葉の意義と機能	9.	
2.	言葉による伝え合いと文字の機能/各児童文化財の特性	10.	
3.	言葉の感覚を豊く遊びの理解と保育実践	11.	
4.	児童文化財の理解と実践①言葉遊び	12.	
5.	児童文化財の理解と実践②手遊び・うた遊び	13.	
6.	児童文化財の理解と実践③絵本・紙芝居	14.	
7.	児童文化財の理解と実践④シアター系文化財	15.	
8.	児童文化財の理解と実践⑤まとめの発表		
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
近藤幹夫ほか『改訂2版 実践につなぐことばと保育』ひとなる書房 ¥2,200(税込)		内角府・文部科学省・厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 ¥500+税	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:
<b>実務経験</b>			
難聴乳幼児早期療育指導員として聴覚特別支援学校内の難聴乳幼児教室で教育活動の経験あり			

保育内容の指導法(言葉Ⅱ)

講義/演習/実技実習・単位数・回数

演・1単位・8回

[学修準備時間 30]

教員

年次・学期

関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連

杉田 律子

2年・前集

[幼選][保選]

- DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性  
◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

授業の目的・内容

【授業の目的と概要】

【到達目標】

領域「言葉」の指導基礎となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を修得することを目的とする。言葉Ⅱでは、言葉Ⅰでの学びを踏まえ、言葉の発達を理解したうえで、具体的な保育場面を想定しながら、言葉の指導法について実践的に学ぶ。

- 1)言葉の意義や機能について理解する。
- 2)言葉に対する感覚を豊かにする方法を身につける。
- 3)乳幼児にとっての児童文化財の意義について理解する。
- 4)児童文化財をもとに教材づくりや実演をすることで、保育実践力を身につける。

履修のルール

【履修のルール】

・ペアワークやグループワーク等に積極的に参加すること。

【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】

予習：次回までに取り組むべき内容や課題、準備物について授業内で指示する。  
復習：講義授業では配布プリント等の内容の整理、演習授業では実践の振り返りを行うこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で解説する。また、実践の振り返りについては個別に添削を行う。  
【オフィスアワー】:授業の前後やりフレクシオンシート等を活用して質問を受け付ける。

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	授業内課題【作品含む】(50%) 課題発表、授業への参加状況(50%)

授業計画

1. オリエンテーション/保育内容の指導法(言葉Ⅰ)を振り返る	9.
2. 児童文化財の研究①ペーパーサート	10.
3. 児童文化財の研究②言葉あそび	11.
4. 児童文化財の研究③ストーリーテリング	12.
5. 児童文化財の研究④文字遊びを取り入れる	13.
6. 児童文化財を用いた保育実践：立案	14.
7. 児童文化財を用いた保育実践：①模擬保育/振り返り	15.
8. 児童文化財を用いた保育実践：②模擬保育/振り返り	

【教科書】

適宜プリント教材を配布する。

【参考書】

内角府・文部科学省・厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 ¥500+税

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:

実務経験

難聴乳幼児早期療育指導員として聴覚特別支援学校内の難聴乳幼児教室で教育活動の経験あり

保育内容の指導法(造形表現 I)		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・8回 [学修準備時間 30]	
教員 東 景子	年次・学期 2年・前	関連資格・必修/選択 [幼必][保選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<p>・幼稚園教育要領（保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）の領域「表現」のねらい及び内容について実践的に学ぶ。</p> <p>・「表現」の中でも、造形表現を主体とした展開方法を身に付ける。</p> <p>・主に子どもの発達年齢に応じた「はさみ」の制作と折り紙、絵の具を中心に行う。具体的には、同じ行事やテーマであっても、3歳児から5歳児の発達年齢に応じた作品例を提示し、実際に制作を行う。</p>		<p>・幼稚園教育要領（保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）の領域「表現」のねらい及び内容について理解する。</p> <p>・造形表現の意義について理解する。</p> <p>・発達年齢に応じた、はさみの使い方や折り紙の内容、絵の具の扱い方を理解し、保育現場で活用する力を身に付ける。</p> <p>・幼児が造形表現で身に付ける力を理解し、小学校の図画工作とのつながりを理解する。</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b>	
特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装がエプロン等を持参の上受講する事。		必要な道具と素材は告知するので、必ず事前に準備し持参する事。各課題について確実に仕上げる。	
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>			
作品鑑賞会の際にコメントをする、もしくは、課題とプリント返却時にメッセージを添える等の方法で行う。			
【オフィスアワー】:月火水金の昼休み、図工室か研究室			
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	準備物、制作課題提出、作品制作意図のまとめプリントで評価する。	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション・造形活動の意義-はさみの活動例-	9.		
2. 梅雨の制作 実習に向けての平面制作①	10.		
3. 梅雨の制作 実習に向けての平面制作②	11.		
4. 身近な素材を使った造形①	12.		
5. 夏の制作 基礎技法を使って①	13.		
6. 夏の制作 基礎技法を使って②	14.		
7. 身近な素材を使った造形②	15.		
8. まとめ 紙粘土を使った制作			
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
一年時購入済『保育をひらく造形表現』萌文書林¥2,300円+税 必要に応じてプリント資料を配布する。 二年の追加画材●協和紙工 パラエティおりがみ15cm角(80枚)、●銀鳥産業 かるーいかみねんど白			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:
<b>実務経験</b>			
小中学校の図画工作・美術と併設の特別支援学級の美術(非常勤講師・常勤講師)、社会人向けの生涯学習(木版画教室)講師			

保育内容の指導法(造形表現Ⅱ)

講義/演習/実技実習・単位数・回数

演・1単位・8回

[学修準備時間 30]

教員

年次・学期

関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連

東 景子

2年・後

[幼必][保選]

- DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性  
◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

授業の目的・内容

【授業の目的と概要】

保育内容と指導法(造形表現Ⅰ)で学んだ事を基にして学ぶ。

・幼稚園教育要領(保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)の領域「表現」のねらい及び内容について実践的に学ぶ。

・「表現」の中でも、造形表現を主体とした展開方法を身に付ける。

・主に子どもの発達年齢に応じた「はさみ」の制作と折り紙、絵の具を中心に行う。具体的には、同じ行事やテーマであっても、3歳児から5歳児の発達年齢に応じた作品例を提示し、実際に制作を行う。

【到達目標】

・幼稚園教育要領(保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)の領域「表現」のねらい及び内容について理解する。

・造形表現の意義について理解する。

・発達年齢に応じた、はさみの使い方や折り紙の内容、絵の具の扱い方を理解し、保育現場で活用する力を身に付ける。

・幼児が造形表現で身につける力を理解し、小学校の図画工作とのつながりを理解する。

履修のルール

【履修のルール】

特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装かエプロン等を持参の上受講する事。

【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】

必要な道具と素材は告知するので、必ず事前に準備し持参する事。各課題について確実に仕上げる。

【課題に対するフィードバックの方法】

作品鑑賞会の際にコメントをする、もしくは、課題とプリント返却時にメッセージを添える等の方法で行う。

[オフィスアワー]:月火水金の昼休み、図工室が研究室

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	準備物、制作課題提出、作品制作意図のまとめプリントで評価する。

授業計画

1. 後期オリエンテーション	9.
2. 冬の造形①折り紙やハサミの活用	10.
3. 冬の造形②折り紙やハサミの活用・完成	11.
4. 絵馬に希望や願いを込めて-個人制作-	12.
5. 大絵馬に挑戦グループワーク①下地塗り	13.
6. 大絵馬に挑戦グループワーク②完成	14.
7. 春の造形①折り紙やハサミの活用	15.
8. 春の造形②完成、まとめ	

【教科書】

一年時購入済『保育をひらく造形表現』萌文書林2,300円

+税

必要に応じてプリント資料を配布する。

購入済の画材一式

【参考書】

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:

実務経験

小中学校の図画工作・美術と併設の特別支援学級の美術(非常勤講師・常勤講師)、社会人向けの生涯学習(木版画教室)講師

保育内容の指導法(音楽表現 I)

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数

演・1単位・8回

[学修準備時間 30]

教員	年次・学期	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
大浦 知加	2年・前	[幼必][保選]	- DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

授業の目的・内容

【授業の目的と概要】

・ 幼児の様々な表現方法を豊かにするための表現遊びとその環境構成を実践的に学ぶ。  
・ 表現遊びの中でも、音楽を主体とした展開方法を身につける。  
・ 表現遊びに必要な鍵盤演奏力の向上を目指す。  
・ 鍵盤楽器以外の楽器や和太鼓の奏法を学びながら、保育に取り入れる指導法を学ぶ。  
・ 音楽を取り入れた保育計画の立案について学ぶ。  
・ 演奏を修得する上で必要な音楽理論も学ぶ。  
・ よりよい保育計画案に改善できることを目指す。

【到達目標】

・ 幼稚園教育要領(保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解する。  
・ 音楽の側面から領域「表現」を捉え、その指導を展開できる。  
・ 弾き歌いを用いた音楽表現活動を実施できる。  
・ 鍵盤楽器以外、和太鼓等を用いた音楽表現活動を実施できる。

履修のルール

【履修のルール】

・ 音楽を使った身体遊びなども行うため、動きやすい服装で出席すること。  
・ ピアノ練習のため、イヤホンを持参すること(スマホ等で使用しているものでよい)

【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】

・ 自分の指導法を確立できるようになるためにも、日常的に様々な方法を見つけられるような姿勢で周りを見るようにしましょう。  
・ 弾き歌いは、日々の積み重ねが大切です。毎日、練習しましょう。

【課題に対するフィードバックの方法】

実技ミニチェックでは、その場で各自に応じた指導を返している。また、楽典、レポートなどはClassroom等で各自の課題をコメントし、指導に活かしている。  
【オフィスアワー】:火~金(研究室)

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	40	実技試験(ピアノ・和太鼓、日常授業の取り組み状況も含む)
期末レポート	0	
その他	60	授業内で実施する実技ミニチェック、学習のまとめのレポート内容及び成果と取組状況

授業計画

1. 領域「表現」のねらい及び内容の取扱い、幼小接続・学びの連続性における表現の発達を音楽の側面から理解する	9.
2. こどもの音楽あそび—身体を通して表現する活動—①(リトミック等の表現)を取り入れた活動の体験	10.
3. こどもの音楽あそび—身体を通して表現する活動—②(手遊び・音楽遊び等の表現)を取り入れた活動を行う保育計画の立案	11.
4. こどもの音楽あそび—身体を通して表現する活動—③(手遊び・音楽遊び等の表現)を取り入れた活動を行う保育計画の実施	12.
5. こどもの音楽あそび—モノとの対話から表現する活動—①(和太鼓等、楽器を使って)を取り入れた活動の体験	13.
6. こどもの音楽あそび—モノとの対話から表現する活動—②(和太鼓等、楽器を使って)を取り入れた活動を行う保育計画の立案	14.
7. こどもの音楽あそび—モノとの対話から表現する活動—③(和太鼓等、楽器を使って)を取り入れた活動を行う保育計画の実施	15.
8. こどもの音楽あそび—モノとの対話から表現する活動—④(和太鼓等、楽器を使って)を取り入れた活動を行う保育計画をICT活用して発表	

【教科書】

編著：木村鈴代『新しい子どものうたあそび』同文書院 平成29年度 幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)  
編著：伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』ドレミ楽譜 適宜授業内で紹介する。  
出版¥1,980(税込)  
※すべて1回生時の教科書を使用

【参考書】

平成29年度 幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他：学生による創作演奏

実務経験

保育園・こども園・小学校・中学校・高校、専門学校音楽講師勤務の経験と、現場保育者や教員への音楽指導経験を生かした指導法を展開する。また長年、0歳~大人までのピアノ指導や親子リトミック・音楽遊び指導を行い、和楽器・管弦打楽器こどもオーケストラや舞台イベントを主催・指導。自身も和太鼓やピアノによる舞台表現家である。

保育内容の指導法(音楽表現Ⅱ)

講義/演習/実技実習・単位数・回数

演・1単位・8回

[学修準備時間 30]

教員	年次・学期	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
寄 ゆかり	2年・後	[幼必][保選]	- DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

授業の目的・内容

<b>【授業の目的と概要】</b>	<b>【到達目標】</b>
保育内容の指導法(音楽表現Ⅰ)で学んだことをもとに、さらに ・幼児の様々な表現方法を豊かにするための表現遊びとその環境構成を実践的に学ぶ。 ・表現遊びの中でも、音楽を主体とした展開とその発展方法を身につける。 ・表現遊びに必要な鍵盤演奏力の向上を目指す。 ・様々な楽器を用いた合奏法を学ぶ。 ・情報機器を用いた保育計画の立案について学ぶ。 ・よりよい保育計画案に改善できることを目指す。 ・演奏を修得する上で必要な音楽理論も学ぶ。	幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解し、音楽の側面から表現を捉え、その指導計画立案、実施を通して、その指導法を身に付ける

履修のルール

<b>【履修のルール】</b>	<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b>
・音楽を使った身体遊びなども行うため、動きやすい服装で出席すること。 ・ピアノ練習のため、イヤホンを持参すること。	・自分の指導法を確立できるようになるためにも、日常的に音楽の様々な音楽表現を見つめる意識をもち、教材研究に励みましょう。 ・弾き歌いは、日々の積み重ねが大切です。毎日、練習しましょう。 <b>【課題に対するフィードバックの方法】</b> 実技ミニチェックでは、その場で各自に応じた指導を返している。また、楽典、レポートなどはClassroom等で各自の課題をコメントし、指導に活かしている。 【オフィスアワー】:お昼休み等(研究室)

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	50	実技試験及び筆記試験
期末レポート	0	
その他	50	授業内で実施する実技ミニチェック、楽典ミニテストほか学習のまどめのレポート内容及び成果と取組状況

授業計画

1. 領域「表現」のねらい及び内容の取扱いにおける音楽表現の捉え方	9.
2. 音楽の楽しさを様々な楽器の奏法を学ぶ(いい音色を鳴らす)	10.
3. 音楽表現の一方法(ボディーパーカッション)を理解する	11.
4. 音楽表現の体験と子どもができるボディーパーカッションを考える。	12.
5. 音楽の楽しさを味わうことを目的とした保育計画のための情報機器を用いた教材研究	13.
6. 鍵盤楽器での音楽表現方法	14.
7. 子どもと合奏する場合をイメージして合奏を完成させる	15.
8. 合奏発表に向けての課題の改善と本活動として指導案の作成	

<b>【教科書】</b>	<b>【参考書】</b>
編著:伊藤伸明『3つのコードで楽らく弾ける』ドレミ楽譜出版 出版 ¥1,980(税込) 編著:木村鈴代『たのしい子どものうたあそび』 同文書院¥2,200+税 ※すべて1回生時、表現技術(ピアノⅠ)の教科書を継続して使用します。 それ以外は、プリント配付	

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

実務経験

音楽教室においては、3歳児から70代までの幅広い層にピアノ、エレクトーンでの鍵盤指導及び管楽器、打楽器指導を中心としたアンサンブル教育も行う。また現役保育者に対する保育内容に関する実技講習などの研修を多く行っている。



保育内容の指導法(総合表現)

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数

演・1単位・15回

[学修準備時間 15]

教員	年次・学期	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
大浦 知加	2年・後	[幼必][保選]	- DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

授業の目的・内容

<b>[授業の目的と概要]</b>	<b>[到達目標]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・三法令の領域「表現」のねらい及び内容の取扱について、総合的な視点から理解する。</li> <li>・「音楽」「言語」「身体」「造形」表現の学びの集大成として、こどもの表現の過程を理解する感性と表現力を養う。</li> <li>・主体的に動き自分の得意な分野の力を伸ばし、対話的に他者とコラボレーションする力を育む。</li> <li>・子どもたちの表現力を引き出し、見守り、援助することができる保育者を目指す。</li> <li>・集団活動の中で主体的に動き協働する力や、周りを見渡す力を養う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・劇作りのプロセスから、子どもが表現を獲得していく過程を理解する。</li> <li>・豊かな感性を養い、様々な表現力を身につける。</li> <li>・見通しを立てて計画し、実行することができる。</li> <li>・集団活動の中で周りを見渡しながら主体的に動くことができる。</li> <li>・他者とコラボレーションする力を身につける。</li> </ul>

履修のルール

<b>[履修のルール]</b>	<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・動きを伴うため、動きやすい服装と靴。</li> <li>・造形創作時は汚れても良い服装で。</li> <li>・創作時は各自「ホチキス、カッター、のり、マジック、色鉛筆」等を持ってくる。</li> <li>・脚本係はPC要。</li> <li>・夏休みに授業前課題として、指示された昨年2回生の劇発表動画鑑賞しレポートを提出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミュージカルや劇等の動画を観て参考にする。</li> <li>・授業前課題を提出する</li> <li>・舞台やテレビ、映画等での、役者の話し方や目線、動き方、話の起承転結を参考にする。</li> <li>・造形創作が始まったら、休み時間や放課後等の空いている時間に制作をしても良い。</li> </ul> <p><b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> その場で、課題に応じた指導を返したり、補足説明をする。また、随時メールや Classroom を活用して行う。 【オフィスアワー】:お昼休み等(研究室)</p>

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・劇作りへの取り組み状況</li> <li>・授業前課題提出レポート</li> <li>・授業内、振り返りレポート</li> <li>・創作劇発表に取り組む姿勢(意欲・片付け含む)</li> </ul> 上記を総合的に評価する。

授業計画

1. 領域「表現」のねらい及び内容の取扱いを総合的に理解する	9. 音楽表現:音楽表現におけるディスカッションと改善
2. 言語・身体・音楽・造形表現を融合させ劇を創作することを理解し、手立てや材料などについて構想する	10. 身体表現:ダンスや動きに関するディスカッションと改善
3. 役割分担、劇イメージの共有、製作の計画作成と実践	11. 言語表現:ナレーションやセリフに関するディスカッションと改善
4. 造形表現:舞台、衣装等の計画と制作	12. 他クラスと劇発表を鑑賞し合い、意見交換をする
5. 音楽表現:場面表現における音楽の効果探究と創作	13. クラス毎に、ディスカッションを通じた表現の深化・改善
6. 身体表現:ダンスの計画と創作	14. 劇発表の振り返りと表現活動のまとめ
7. 言語表現:登場人物のキャラクター、セリフの創作	15. 子どもたちと創作する劇について学ぶ
8. 造形表現:舞台、衣装等におけるディスカッションと改善	

<b>[教科書]</b>	<b>[参考書]</b>
適宜指示します。※すべて1回生時の教科書を使用	

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:学生による創作表現・発表・運営

実務経験

保育園・子ども園・小学校・中学校・高校、専門学校音楽講師勤務の経験と、現場保育者や教員への音楽指導経験を生かした指導法を展開する。また長年、0歳~大人までのピアノ指導や親子リトミック・音楽遊び指導を行い、和楽器・管弦打楽器こどもオーケストラや舞台イベントを主催・指導。自身も和太鼓やピアノによる舞台表現家である。

幼児教育科 2年次 講義要綱

教職・保育者論		講義/演習/実技実習・単位数・回数 講・2単位・15回 [学修準備時間 60]	
教員 板倉 史郎	年次・学期 1年・前	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
[授業の目的と概要]		[到達目標]	
学校教育・保育の目的と教員・保育士養成の変遷について概説し、現代社会における教職・保育職について、その意義、役割、資質、職務について学習する。 教員、保育者の職務について理解する。			
<b>履修のルール</b>			
[履修のルール]		[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]	
・配布する資料等を整理し、活用する。 ・授業時に予習、復習について説明する。 [課題に対するフィードバックの方法] ・講義で課すミニレポートに関しては、次回の講義で講評を行い、返却する。 [オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。			
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	授業への参加状況(40%)、各講義で課すミニレポート(40%)、最終レポート(20%)により総合的に評価する。	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション、授業概要、諸注意 2. 教育とは何か-「教育」と「教師」 3. 教職とは何か①-教師にはどのような資質、能力が求められるか 4. 教職とは何か②-教師・教職の歴史、養成・採用・研修 5. 法令から見た教員-教員の種類、身分、職務 6. 幼保連携(一元化)-保育士と幼稚園教員、保育教師 7. 教員・保育者の専門性①-子ども理解 8. 教員・保育者の専門性②-緊急時の対応 9. 教員・保育者の専門性③-保・幼・小の連携と協働 10. 幼稚園教諭と保育士の職務の相違点、共通点 11. 教員以外の専門職スタッフとの連携・協働-チーム学校 12. 地域社会、保護者との連携・協働 13. 学校・教員をとりまく現状と課題①-教員評価、法定研修、休暇 14. 学校・教員をとりまく現状と課題②-いじめ問題、カウンセリングマインド 15. 教職・保育職の意義及び教員・保育士の職務のまとめ			
[教科書]		[参考書]	
・奇ゆかり、伊藤一雄編著『新しい保育基礎』サンライズ出版 ・¥2,200(税込)			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:
<b>実務経験</b>			
・小学校現場において、長年にわたり教育活動を行ってきた。 ・小学校現場において、実習生の指導を担当してきた。			

特別支援教育		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 演・1単位・8回 [学修準備時間 30]	
教員 土居 隆	年次・学期 1年・後	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
【授業の目的と概要】 特別支援教育は、障害のある子ども一人一人の教育的ニーズを把握しその持てる力を高め、生活や学習上の困難を理解し適切な指導や必要な支援を行うものである。本授業では、特別支援教育の基本や仕組み、歴史の変遷について知るとともに、特別の支援を必要とする子どもとの関わりや支援方法の基本、現状と課題について理解することを通し、専門性の基礎を身に付けることを目的とする。		【到達目標】 1)特別支援教育に関する制度（インクルーシブ教育システム含む）の基本理念や仕組み、歴史の変遷について説明できる。 2)特別の支援を必要とする子どもとの関わりや合理的配慮について、その基本を説明できる。 3)特別の支援を必要とする子どもに対する教育・保育の実際や支援方法について、その基本を説明できる。 4)特別な配慮を要する子どもの教育・保育に関わる現状と課題について挙げるができる。	
<b>履修のルール</b>			
【履修のルール】		【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】 予習：授業計画を参考に教科書の該当箇所の通読・不明な用語や言葉の確認（60分） 復習：教科書や配布資料の再読・興味を持った筆柄について文献やインターネット等で調べる（60分） 【課題に対するフィードバックの方法】 授業内でフィードバックを行う。また、随時 Classroom を活用して行う。 [オフィスアワー]:火曜以外の昼休み（研究室）	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	40	筆記試験を行う。	
期末レポート	0		
その他	60	各授業の授業内課題及び授業後のミニレポートにより評価する。	
<b>授業計画</b>			
1. 特別の支援を必要とする子どもの教育と障害児保育を支える理念	9.		
2. 障害児等の理解と教育・保育における発達支援①（肢体不自由児、知的障害児等）	10.		
3. 障害児等の理解と教育・保育における発達支援②（重症心身障害児・脆弱児等）	11.		
4. 障害児等の理解と教育・保育における発達支援③（発達障害児等）	12.		
5. 幼稚園・保育所等における障害児その他の特別な配慮を要する子どもの教育・保育の実際	13.		
6. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援方法	14.		
7. 家庭及び自治体・関係機関との連携	15.		
8. 障害その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題			
【教科書】		【参考書】	
・尾野明美・小湊真衣・奥田訓子 編『特別支援 教育・保育概 授業内で適宜紹介する。論』萌文書林 2,000円＋税		・授業時に資料、プリントを配布する。	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	○	反転授業	○
学生によるプレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
		ディスカッション、ディベート	○
		双方向アンケート	○
			グループワーク
			その他：
<b>実務経験</b>			
小学校の学級担任、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーターとして勤務			

特別支援教育・保育演習		講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・1単位・8回 [学修準備時間 30]	
教員 土居 陸	年次・学期 2・3年・前	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
【授業の目的と概要】		【到達目標】	
特別支援教育の実践においては、障害のある子どもや保護者の困り感や心情を理解した上で、学んだ理論や知識を積極的に活用することが求められる。この授業では、子どもの実態把握や教育的支援の工夫、個別の支援計画の作成、家庭や専門機関・小学校との連携について、グループワーク等の演習を通して学ぶことで、専門性と実践力を高めることを目的とする。		1)障害のある子どもの根拠に基づく実態把握ができる。 2)子どもの発達状況に応じた教育的支援や教材・教具の工夫ができる。 3)個別の支援計画を作成し、子どものニーズに応じたチームによる支援を計画できる。 4)家庭や専門機関、小学校との連携におけるポイントについて説明できる。	
<b>履修のルール</b>			
【履修のルール】		【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】	
「特別支援教育」の内容は学習済みであることを前提に授業を行う。		予習：授業計画を参考に教科書の該当箇所の通読・不明な用語や言葉の確認(60分) 復習：教科書や配布資料の再読・興味を持った事柄について文献やインターネット等で調べる(60分)	
【課題に対するフィードバックの方法】 授業内でフィードバックを行う。また、随時 Classroom を活用して行う。 [オフィスアワー]:火曜以外の昼休み(研究室)			
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	20	授業で指示する。到達目標 3)の観点から評価を行う。	
その他	80	各授業の授業内課題及びミニレポート、授業で指示する課題(到達目標 2)の観点による)により評価する。	
<b>授業計画</b>			
1.	保育と特別支援教育	9.	
2.	対人関係の課題やこだわりのある子どもの保育	10.	
3.	不注意や落ち着きのなさがある子どもの保育	11.	
4.	学習に課題のある子どもの保育	12.	
5.	幼稚園・保育所等の支援について①(子どもの観察の方法・環境調整)	13.	
6.	幼稚園・保育所等の支援について②(個別の指導計画・障害理解教育)	14.	
7.	家庭や専門機関との連携	15.	
8.	小学校へのなめらかな接続		
【教科書】		【参考書】	
・教科書 松井剛太・七木田敦編著「実践事例を通して具体的ななかかわりを学ぶ 保育における特別支援教育」教育情報出版 2200円		授業内で適宜紹介する。	
・「特別支援教育」(1回生科目)で使用したテキストも引き続き使用する。(尾野明美・小湊真衣・奥田訓子編「特別支援教育・保育概論」萌文書林)			
・授業時に資料、プリントを配布する。画用紙等を使用することがある(授業内で指示します)。			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○ PBL(課題解決型学習) 学生によるプレゼンテーション	○ 反転授業 実習、フィールドワーク	○ ディスカッション、ディベート 双方向アンケート	○ グループワーク その他:
<b>実務経験</b>			
小学校の学級担任、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーターとして勤務			

教育相談

講義/演習/実技実習・単位数・回数

講・1単位・8回

[学修準備時間 30]

教員

年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連

土居 隆

2・3年・後 [幼必][保必] - DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性  
- DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感

授業の目的・内容

【授業の目的と概要】

教育相談は、子どもが集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。この授業では、子どもの発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、保護者とともに子どもの発達を支えるため、教育相談に必要な基礎的知識（理論や技法を含む）を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

- 1)教育相談の意義や基本的な考え方について説明できる。
- 2)教育相談を進める際に必要な主要なカウンセリングの理論や主要な技法について、その基礎的事項を説明できる。
- 3)教育相談の具体的な進め方や対応の仕方の基本を身に付けるとともに、組織的な取組や連携の必要性を説明できる。
- 4)保育者のメンタルヘルスの大切さを知るとともに、実践できる。

履修のルール

【履修のルール】

【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】

予習：授業計画を参考に教科書の該当箇所の通読・不明な用語や言葉の確認（60分）  
復習：教科書や配布資料の再読・興味を持った事柄について文献やインターネット等で調べる（60分）

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内でフィードバックを行う。また、随時Classroomを活用して行う。  
【オフィスアワー】:火曜以外の昼休み（研究室）

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	40	筆記試験を行う。
期末レポート	0	
その他	60	各授業の授業内課題及びミニレポートにより評価する。

授業計画

1. 教育相談って何するの？	9.
2. 子どもを理解する	10.
3. 保護者への支援	11.
4. カウンセリングマインド	12.
5. 相談にのるための技法①（傾聴・非言語的コミュニケーション）	13.
6. 相談にのるための技法②（言語による応答・行動療法・認知行動療法）	14.
7. 園内の教育相談体制・外部機関との連携	15.
8. 保育者のメンタルヘルス	

【教科書】

【参考書】

・杉崎雅子「スギ先生と学ぶ教育相談のきほん」 萌文書林 授業内で適宜紹介する。  
¥1,870(税込)  
・授業時に資料、プリントを配布する。

アクティブラーニングへの取り組み

○ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

実務経験

指導主事として巡回相談、臨床心理士として発達相談を担当

**教育実習 I** 講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
実・2単位・回  
[学修準備時間 0]

教員 板倉 史郎, 本田 和隆, 他      年次・学期 1年・後集      関連資格・必修/選択 [幼必]      ディプロマポリシー(DP)との関連  
 - DP1:情熱・使命感    ◎ DP3:探究・主体性  
 ○ DP2: 知識・技術      - DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

**[授業の目的と概要]**      **[到達目標]**

・この実習は、幼稚園教諭2種免許を取得するための実習である。実習を通じて、幼稚園教諭として必要な知識と技術を身につけ、教員としての資質を向上させることを目的としている。この実習は基礎的な実習として位置付き、2回生で実施する教育実習Ⅱに繋がるものである。

・幼稚園の機能、社会的役割および幼稚園教諭の業務内容を理解する。  
 ・幼稚園教諭の姿から子どものかかわり方の実際を学ぶ  
 ・保育計画(保育指導案)の立案を学ぶ  
 ・幼稚園教諭として必要な資質および知識、技術を身につける  
 ・幼児教育に対する考え方を深める

・教育実習Ⅰでは、幼稚園の教育活動に参加し、幼稚園教諭の業務と役割について実践的に学ぶ参加実習を中心に行う。また、そこでの実習指導者指導のもと、幼稚園教諭に必要な資質、技能を習得する。

**履修のルール**

**[履修のルール]**      **[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]**

・保育実習指導Ⅰ(保育所)への事前指導の出席が4/5に満たない者については、本実習への参加を認めない。  
 ・春夏期において教育学、教職・保育者論を含む20単位以上の取得を実習参加の原則とする。

・実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。

**[課題に対するフィードバックの方法]**

・実習後に個人面談を行い、実習園の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。  
 [オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	・実習評価(75%) ・実習記録の内容(25%)

**授業計画**

1. 実習ハンドブック参照	9.
2.	10.
3.	11.
4.	12.
5.	13.
6.	14.
7.	15.
8.	

**[教科書]**      **[参考書]**

・小椋智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込)  
 ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750円

**アクティブラーニングへの取り組み**

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

**実務経験**

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

教育実習Ⅱ 講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
実・2単位・回  
[学修準備時間]

教員 年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連  
板倉 史郎, 本田 和隆, 他 2年・前集 [幼必] - DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性  
○ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

<p><b>【授業の目的と概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この実習は、幼稚園教諭2種免許を取得するための基礎及び応用的な実習である。実習を通じて、幼稚園教諭として必要な知識と技術を身につけ、教員としての資質を向上させることを目的としている。</li> <li>・教育実習では、幼稚園の教育活動に参加し、幼稚園教諭の業務と役割について実践的に学が参加実習、教育活動にかかわる計画を立案し、部分実習、責任実習に参加する。また、そこでの実習指導者指導のもと、幼稚園教諭に必要な資質、技能を習得する。</li> </ul>	<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の機能、社会的役割および幼稚園教諭の業務内容を理解する。</li> <li>・幼稚園教諭の姿から子どもとのかかわり方を理解する</li> <li>・子どもの発達に応じた関わり方を学ぶ</li> <li>・保育計画(保育指導案)の立案および実施できる</li> <li>・幼稚園教諭として必要な資質および知識、技術を身につける</li> <li>・幼児教育に対する考え方を深める</li> </ul>
---	---

**履修のルール**

<p><b>【履修のルール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導の出席が4/5に満たない者については、本実習への参加を認めない。</li> </ul>	<p><b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回提示される課題については、提出期日も含めて必ず行うこと</li> </ul> <p><b>【課題に対するフィードバックの方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習後に個人面談を行い、実習園の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。</li> </ul> <p><b>【オフィスアワー】:</b> 特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。</p>
--	--

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設による評価(75%)</li> <li>・実習日誌(25%)</li> </ul>

**授業計画**

1. 実習ハンドブック 参照	9.
2.	10.
3.	11.
4.	12.
5.	13.
6.	14.
7.	15.
8.	

<p><b>【教科書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小椋智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込)</li> <li>・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)¥750</li> </ul>	<p><b>【参考書】</b></p>
---	---------------------

**アクティブラーニングへの取り組み**

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

**実務経験**

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

<b>教育実習指導</b>		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 演 ・ 1 単位 ・ 15 回 [学修準備時間 15]	
教員 板倉 史郎, 本田 和隆	年次・学期 1 年通* ・ (2 年前)	関連資格・必修/選択 [幼必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<p>本授業は、教育実習に参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。</p> <p>講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養い、及び幼稚園の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。幼稚園の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園の教育活動を理解する</li> <li>・ 幼稚園の制度的理解を深める</li> <li>・ 幼稚園教諭として必要とされる保育の内容を学ぶ</li> <li>・ 幼稚園教諭として求められる基礎的な知識・技能を学ぶ</li> <li>・ 子どもの発達的基础知識に基づき、保育計画(保育指導案)が作成できる</li> <li>・ 実習記録が書けるようになる</li> </ul>	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前指導は 4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと(板倉研究室)</li> <li>・ 実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある</li> <li>・ 全 15 回を 2 年間にわたって履修</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎時、提示される課題等は必ず行うこと。</li> </ul>	
		<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。</li> <li>[オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。</li> </ul>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業に取り組む姿勢(受講態度)(30%)</li> <li>・ 授業における参加状況(15%)</li> <li>・ 実習課題提出、到達状況(30%)</li> <li>・ 実習後の振り返り、まとめ、報告(25%)</li> </ul>	
<b>授業計画</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(教育実習とは)</li> <li>2. 幼稚園の役割と機能、幼稚園教諭の職務の理解</li> <li>3. 幼稚園の一日の流れ</li> <li>4. 保育技術の習得</li> <li>5. 教育実習の目標と課題(カード作成)</li> <li>6. 実習記録の構成</li> <li>7. 実習記録の記述方法</li> <li>8. 参加・観察実習事前指導①～初めての実習に参加すること～</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. 参加・観察実習事前指導②～実習での自己課題の確認～</li> <li>10. 実習振り返りによる自己課題の明確化①</li> <li>11. 実習記録の改善点～本実習に向けて～</li> <li>12. 教育実習の目標と課題(カード作成)</li> <li>13. 教育実習事前指導①～本実習の理解～</li> <li>14. 教育実習事前指導②～自己課題の確認～</li> <li>15. 実習振り返りによる自己課題の明確化② まとめ</li> </ol>		
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小椋智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習 授業内で紹介するパーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込)</li> <li>・ 本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750 円</li> </ul>			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
○	PBL(課題解決型学習)	○	反転授業
○	学生によるプレゼンテーション	○	ディスカッション、ディベート
		○	グループワーク
			その他:
<b>実務経験</b>			
小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。			



保育・教職実践演習

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
演・2単位・15回

[学修準備時間 60]

教員 板倉 史郎	年次・学期 2・3年・後	関連資格・必修/選択 [幼必][保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
-------------	-----------------	------------------------	---

授業の目的・内容

<b>【授業の目的と概要】</b>	<b>【到達目標】</b>
保育・教職に関する科目の学習及び保育実習、教育実習、学校外の活動などを通して、保育・教職に関する基礎的知識と技能が獲得できたかを確認し、保育・教職についての理解と職業意識を深める。	・保育者、教育者として使命感、情熱を持つ姿勢が身についている。 ・保育施設で働く上での社会性や対人関係能力について理解し、実践できる。 ・子ども理解の意味を認識した上で、その取組方法について理解できている。

履修のルール

<b>【履修のルール】</b>	<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b>
	・配布する資料等を整理し、活用する。 ・授業時に予習、復習について説明する。 <b>【課題に対するフィードバックの方法】</b> ・講義で課すミニレポートに関しては、次回の講義で講評を行い、返却する。 【オフィスアワー】:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	授業に取り組む姿勢(40%)、各講義で課すミニレポート(40%)、最終レポート(20%)により総合的に評価する。

授業計画

1. 科目「教職実践演習」が設けられた趣旨及び授業の目的と方法についてオリエンテーションを行う。	9. 実習において遭遇した場面において、どのような対応が必要であったか検討する。
2. 学校の種類、教員の研修、服務など教員の使命感、責任感、教育的愛情に関する事項について教員としての職務を理解しているか。教職論の内容が定着しているかを確認の講義を行う。	10. 子どもたちが置かれている現状について、いくつかの視点から検討し、深く学ぶ。
3. 教員として必要な社会性や対人関係能力に関する事項について、教員の服務について多様な事例を取り上げ演習方式で学生参加の授業を行う。世代間、男女間、幼児・教員間、教員間の理解を深めるにはなにが必要か。行動特性の違いをどう把握するかについて理解を深める。	11. 保育施設や保育者が置かれている現状を確認し、保育者のやりがいを確認する。
4. 現実の園や学校で生じている課題についてチームとして教員の協力・協働を深めるにはどのような姿勢が必要か具体的な課題について議論し包括する訓練を行う。	12. 保・幼・小連携の必要性と取り組まれている事例、求められる実務について学ぶ。
5. 社会性や対人関係能力を深めるため、自己紹介、父母への国の紹介(自己表現)、園児の父母の前で伝えたいことを話すために準備しておくことはなにかなどの役割演技(ロールプレイ)を行う。	13. 保育者に求められる専門性について、子ども、保護者、社会をキーワードに考える。
6. 幼児、児童、生徒にはどのような発達上の特徴があるか。コミュニケーションをする上での留意点について幼児、児童、生徒理解や学級経営の視点から問答方式により理解を深める。	14. 保育者に求められる倫理について、普遍的な観点と現代的な観点から確認する。
7. 教育実習参加者の報告、実習中で、失敗したこと、感動したことなど、強く意識したこと等を各自3分程度にまとめて発表する。2~6回までの内容再確認の小テストを行う。	15. 保護者対応の考え方について確認するとともに、基本的な姿勢について学ぶ。
8. 実習等を振り返り、身につけたい自分の課題を明らかにし、そのための方策を検討する。	

<b>【教科書】</b>	<b>【参考書】</b>
授業時に配布する。	

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

実務経験

学校現場において教育活動を行う中で、実践を通して様々な課題について取り組んできました。

幼児教育科目  
2年次

保育原理		講義/演習/実技実習・単位数・回数 講・2単位・15回 [学修準備時間 60]	
教員 今井 美樹	年次・学期 1年・前	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>[授業の目的と概要]</b>		<b>[到達目標]</b>	
<p>保育の意義・目的・制度・基礎理論・方法、保育者の在り方を学ぶことを目的とする。</p> <p>・保育実践の基本となる子ども理解の意義とその方法について学ぶ。</p> <p>・集団の中で一人一人の心身の発達状況を細やかに読み取り、必要な経験や学びを理解し、保育を構想する力を身に付けるために、演習を通して実践的に学んでいく。</p> <p>・保育における基本や歴史、今日の課題などを自発的にしっかり学び、一人一人が自分自身の保育に対する考えを持てるように学びを広げていく。</p>		<p>①保育の意義及び目的を理解する。</p> <p>②保育に関する法規と制度を理解する。</p> <p>③保育の思想や歴史を知る。</p> <p>④保育の現状と課題を理解する。</p> <p>⑤保育の運営、地域との連携、安全への対応を理解する。</p> <p>⑥保育者の在り方を知る</p>	
<b>履修のルール</b>			
<b>[履修のルール]</b>		<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>	
		<p>予習：シラバスを参考に教科書の指定ページの精読（60分）復習：授業内容を参考にノート整理・事後学習課題（60分）</p> <p><b>[課題に対するフィードバックの方法]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時全体アナウンス</li> <li>・Google Classroomを活用してコメントを行う。</li> <li>【オフィスアワー】：後日公表（メール及びGoogle Classroomも常時活用）</li> </ul>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	<p>・到達度検証テスト5回 60% 授業内5回の到達度テストで、習熟度を確認する。</p> <p>・課題（小レポート）提出 40% 授業内で取り上げた課題について調べ、自分の考えを述べる小レポートを2回実施する。</p>	
<b>授業計画</b>			
1. オリエンテーション 授業の目的、目標、内容、授業計画と評価観点・方法の説明	9.	西洋と日本の保育の創成期	
2. 保育の方向性と保育実践の基礎となる発達観 到達度テスト	10.	西洋の保育実践の発展過程	
3. 保育の関する諸法令などからみる保育の原理	11.	日本の保育実践の発展過程	
4. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育、保育要領にみる保育の原理	12.	倉橋惣三に学ぶ一児童中心主義の保育を探る・到達度テスト	
5. 職域と教育の一体化についてについて・到達度テスト	13.	保育者の在り方を考える	
6. 保育実践の基本構造について	14.	これからの保育に向けて・到達度テスト	
7. 多様な保育内容とその方法	15.	保育原理まとめ 子どもの命と将来の可能性を担う教育職・保育職に就くには	
8. 子育て支援について学ぶ・到達度テスト			
<b>[教科書]</b>		<b>[参考書]</b>	
<p>佐伯一弥企画・著・金球珠 改訂2版「Workで学ぶ保育原理」株式会社わかば社¥1,870</p>		<p>・文部科学省編 幼稚園教育要領解説（平成30年3月）フレーベル館¥264 ・厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年3月）フレーベル館¥352 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）フレーベル館¥385</p>	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:
<b>実務経験</b>			
幼稚園教諭、保育園施設長 子育て支援員研修講師（保育原理）			

乳児保育 I		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 講 ・ 2 単位 ・ 15 回 [学修準備時間 60]	
教員 今井 美樹	年次・学期 1年・後	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
[授業の目的と概要] 現代における乳児を取り巻く環境について知り、教育・保育施設において保育者が日々実践している乳児保育についての定義・目的・役割等を学ぶ。出生してから著しく発達していく時期の乳児の生活や遊びの実際を知り、そこに寄り添う保育者としての求められる知識や保育方法の基本について事例等を通して検討する中で学び、「子どもの最善の利益」とは何なのかについて理解を深める。		[到達目標] 1. 乳児保育の意義、目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。	
<b>履修のルール</b>			
[履修のルール]		[予習・復習の方法「自主学习ガイド」] 予習：次回の授業について、テキストの内容を予習しておくこと。 復習：授業内容や大切な学びとなった点についてノートに整理をし、関連した図書や制度、資料等を確認し学びを深めること。 [課題に対するフィードバックの方法] ・ 授業時全体アナウンス ・ Google classroom コメント [オフィスアワー]:後日公表 メール	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達度テスト 2回 (60%) 授業内容について知識・理解の習熟度を問う確認テスト</li> <li>・ 振り返りレポート (20%) 毎回の授業の振り返りレポート提出</li> <li>・ 課題 (手作り絵本) 製作 (20%) 課題 (乳児向け絵本) 製作</li> </ul>	
<b>授業計画</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 本授業の進め方や授業方法などについて説明等を行う</li> <li>2. 乳児保育の目的と役割、実施体制などについて</li> <li>3. 乳児保育の基本 乳児保育の背景や歴史の変遷、子育て支援、地域との繋がりについて</li> <li>4. 0・1・2歳児の発達 0・1・2歳児の子どもの主な発達について</li> <li>5. 乳児(0歳児)の保育内容</li> <li>6. 1歳以上3歳未満児の保育内容</li> <li>7. 乳児の生活と遊びの基本的事項 健康や安全、防災対策について (到達度テスト)</li> <li>8. 乳児の生活の基本 食事・睡眠と休息・排泄・着脱、清潔について</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. 乳児の遊び(乳児の絵本作り) 各年齢ごとの乳児の遊びや遊したおもちゃについて</li> <li>10. 乳児保育の環境構成 乳児の年齢ごとの保育室での環境構成について</li> <li>11. 乳児保育での全体的な計画と指導計画について</li> <li>12. 乳児保育における子育て支援 保護者への対応、支援の実践について</li> <li>13. 乳児保育における連携 乳児保育での職員・家庭・地域での連携について</li> <li>14. 乳児保育の重要性、保育者の専門性と資質向上について (到達度テスト)</li> <li>15. まとめ 子どもの育ちを保護者と分かち合う</li> </ol>		
[教科書] 小山朝子編著 亀崎美沙子・善本真弓 「職観で学ぶ乳児保育」わかば社 ¥1,760		[参考書] ・厚生労働省 保育所保育指針解説(平成30年3月)フレーバル館¥352 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)フレーバル館¥385	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	○	反転授業	○
学生によるプレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
		ディスカッション、ディベート	○
		双方向アンケート	○
		グループワーク	○
		その他:	○
<b>実務経験</b>			
幼稚園教諭・保育園施設長 保育者等キャリアアップ研修講師(乳児保育)			

# 乳児保育Ⅱ

講義/演習/実技実習・単位数・回数

演・1単位・8回

[学修準備時間 30]

教員

今井 美樹

年次・学期

2・3年・前

関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連

[保必]

- DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性  
◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

## 授業の目的・内容

### 【授業の目的と概要】

・乳児保育Ⅰ(講義)で学んだ内容を踏まえ、0・1・2歳児の心身の発達過程や特性を確認し、保育における保育者の援助やかかわりの基本について理解できるようにする。  
また0歳児、1歳児以上3歳未満児の基本的な生活習慣(食事・排泄・睡眠・着脱・清潔)と安全、遊びについての保育の方法、環境の構成や配慮の実践について具体的に学ぶ。  
さらに子どもの気持ちを理解しようとする姿勢、一人一人の子どもに寄り添う保育や計画の作成などについて事例検討やグループワークを取り入れた授業を展開する。

### 【到達目標】

1. 3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの方の基本的な考え方について理解する。
2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法、および環境について、具体的に理解する。
3. 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。
4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における指導計画の作成について、具体的に理解する。

## 履修のルール

### 【履修のルール】

乳児保育Ⅰの内容は学習済であることを前提に行う。

### 【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】

事前学習:シラバスを確認し、該当箇所のテキストを読む。(60分)  
事後学習:当日の授業内容を振り返り、内容を再確認する。関心を持った事項については深く調べる。(60分)

### 【課題に対するフィードバックの方法】

授業時全体アナウンス  
Google Classroom コメント  
【オフィスアワー】:後日公表 メール及びGoogle Classroomも常時活用

## 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・到達度テスト(50%) 基本的な内容が理解できているかを問う到達度確認テストを行う。</li> <li>・課題(乳児向け手作りおもちゃ製作提出)(30%) 手作りおもちゃの製作 保育実習で使えるものとして製作できているか。</li> <li>・授業参加、発表等主体的取組(20%) グループで実践発表等を行う中で、主体的取組ができているか。</li> </ul>

## 授業計画

- |  |     |
|--|-----|
| 1. オリエンテーション<br>養護と教育が一体となって行われる乳児保育の意義について                                    | 9.  |
| 2. 0～3歳までの発育・発達<br>0～3歳の各年齢の発達について   | 10. |
| 3. 食事の援助と環境<br>調乳や冷凍母乳の解凍、授乳、離乳食などの具体的な援助について                                  | 11. |
| 4. 排泄の援助と環境<br>排泄の援助と環境具体的な援助について(到達度テスト)                                      | 12. |
| 5. 睡眠・休息の援助と環境<br>子どもの睡眠や休息時の保育者の援助や保育環境などについて                                 | 13. |
| 6. 着脱に関する援助と環境<br>子どもの衣服や衣服以外(靴下や帽子など)の着脱への保育者の援助について                          | 14. |
| 7. 清潔に関する援助と環境<br>沐浴や清拭、手や顔を拭く、鼻をかむ、うがい、歯磨きなどの援助について                           | 15. |
| 8. 乳児保育における健康と安全<br>乳児保育での安全対策や自己防止、アレルギーへの対応、園外での遊びの対応、虐待、防災対策の実践について(到達度テスト) |     |

### 【教科書】

香本真弓編著・小山朝子・亀崎美沙子「演習で学ぶ 乳児保育」  
わかば社¥1,760

### 【参考書】

厚生労働省 保育所保育指針解説(平成30年3月)フレーベル館¥352  
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)フレーベル館¥385

## アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> 反転授業	ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> グループワーク
学生によるプレゼンテーション	<input type="radio"/> 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

## 実務経験

幼稚園教諭・保育園施設長  
保育者等キャリアアップ研修講師(乳児保育)

子ども家庭支援の心理学 講義/演習/実技実習・単位数・回数  
講・1単位・8回  
【学修準備時間 30】

教員 年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連  
土居 隆 2・3年・後 [保必] - DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性  
◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

**【授業の目的と概要】** **【到達目標】**  
 子どもの発達支援や子育て支援においては、生涯発達の見点から、初期経験の重要性や発達課題、親子関係・家族関係について理解することが求められる。この授業では、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得し、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題、子どもの精神保健とその課題について基本的な理解を得ることを目的とする。  
 1)生涯発達に関する心理学の基礎的事項や初期経験の重要性、発達課題について説明できる。  
 2)家族・家庭の意義や機能、発達の観点からの親子関係・家族関係について説明できる  
 3)子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について説明できる  
 4)子どもの精神保健とその課題について説明できる。

**履修のルール**

**【履修のルール】** **【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】**  
 「教育心理学」「幼児と人間関係」の内容は学習済みであることを前提に授業を行う。  
 予習：授業計画を参考に教科書の該当箇所の通読・不明な用語や言葉の確認(60分)  
 復習：教科書や配布資料の再読・興味を持った事柄について文献やインターネット等で調べる(60分)  
**【課題に対するフィードバックの方法】**  
 授業内でフィードバックを行う。また、随時 Classroom を活用して行う。  
 【オフィスアワー】:火曜以外の昼休み(研究室)

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	40	筆記試験を行う。
期末レポート	0	
その他	60	各授業の授業内課題及びミニレポートにより評価する。

**授業計画**

1. 生涯発達とは何か	9.
2. 乳幼児期から学童期前期にかけての発達	10.
3. 学童期後期から青年期にかけての発達	11.
4. 成人期・老年期における発達	12.
5. 家族・家庭の意義と機能、親子・家族関係の理解	13.
6. 子育ての経験と親としての育ち・多様な家庭背景とその理解	14.
7. 特別な配慮を必要とする家庭	15.
8. 発達支援の必要な子どもがいる家庭・子どもの精神保健	

**【教科書】** **【参考書】**  
 ・青木紀久代編「【シリーズ知のゆりかご】子ども家庭支援の心理学」みらい ¥2,310(税込)  
 ・授業時に資料、プリントを配布する。

**アクティブラーニングへの取り組み**

○ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

**実務経験**

指導主事として巡回相談、臨床心理士として発達相談を担当

保育実習 I (保育所)		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 実・2単位・回 [学修準備時間 0]	
教員 板倉 史郎, 本田 和隆, 他	年次・学期 1年・後集	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b>		<b>【到達目標】</b>	
<p>本実習は、保育士資格を取得するための実習である。実習を通じて保育士として必要な知識と技術を見につけ、その質を向上させることを目的としている。</p> <p>保育実習 I (保育所)では、保育士としての保育活動に参加し、実習指導者の指導のもと、保育士の業務と役割について実践的に学ぶ。また、活動に関わる計画、子どもや利用者の発達に応じた関わり方を学ぶ。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所の機能、社会的役割および保育士の業務について理解する</li> <li>・ 保育士の姿から利用者との関わり方の実際を学ぶ</li> <li>・ 保育計画の立案を学ぶ</li> <li>・ 保育士として必要な資質および知識・技術を身につける</li> <li>・ 保育に対する考え方を深める</li> </ul>	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b>		<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育実習指導 I (保育所) への事前指導の出席が 4/5 に満たない者については、本実習への参加を認めない。</li> <li>・ 実習までに保育原理、乳児保育 I を含む 35 単位以上の取得を参加の原則とする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。</li> </ul>	
		<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習後に個人面談を行い、実習園の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。</li> <li>【オフィスアワー】:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。</li> </ul>	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習評価(75%)</li> <li>・ 実習記録の内容(25%)</li> </ul>	
<b>授業計画</b>			
1. 実習ハンドブック 参照		9.	
2.		10.	
3.		11.	
4.		12.	
5.		13.	
6.		14.	
7.		15.	
8.			
<b>【教科書】</b>		<b>【参考書】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小櫃智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込)</li> <li>・ 本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750円</li> </ul>			
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>□ PBL(課題解決型学習)</li> <li>□ 学生によるプレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 反転授業</li> <li>○ 実習、フィールドワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ ディスカッション、ディベート</li> <li>□ 双方向アンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ グループワーク</li> <li>□ その他:</li> </ul>
<b>実務経験</b>			
小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。			

保育実習指導 I (保育所) 講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
演 ・ 1 単位 ・ 15 回  
[学修準備時間 15]

教員 板倉 史郎, 本田 和隆 年次・学期 1年・通\* 関連資格・必修/選択 [保必] ディプロマポリシー(DP)との関連  
 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性  
 - DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

<p><b>[授業の目的と概要]</b></p> <p>本授業は、保育実習 I (保育所)の参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。          講義・演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び保育所の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。保育所の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。</p>	<p><b>[到達目標]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の目的を理解し、実習課題を明確にする</li> <li>・保育所の制度的理解を深める</li> <li>・保育所を利用する子どもと家族の生活を理解し、必要とされる保育・子育て支援の概要を学ぶ</li> <li>・保育士として求められる基礎的な知識、技能の活用方法を学ぶ</li> <li>・子どもの発達の基本知識に基づき、保育計画(保育指導案)が作成できる</li> <li>・実習記録が書ける</li> </ul>
--	---

**履修のルール**

<p><b>[履修のルール]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導は、4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと(板倉研究室)</li> <li>・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある</li> </ul>	<p><b>[到達目標]</b></p> <p><b>[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時、提示される課題等は必ず行うこと。</li> </ul> <p><b>[課題に対するフィードバックの方法]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。</li> <li>[オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。</li> </ul>
--	---

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に取り組む姿勢(受講態度)(30%)</li> <li>・授業における参加状況(15%)</li> <li>・実習課題提出、到達状況(35%)</li> <li>・実習後の振り返り、まとめ、報告(20%)</li> </ul>

**授業計画**

- |  |  |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(保育実習とは)</li> <li>2. 実習目的を基にした実習生カードの指導、記入</li> <li>3. 実習目的に基づく自己課題の明確化</li> <li>4. ソーシャルスキルに関わる演習</li> <li>5. 実習記録の書き方①目的とねらい</li> <li>6. 実習記録の書き方②子どもの動きと保育者の動き</li> <li>7. 保育計画指導案の立て方① ねらいをもった指導案</li> <li>8. 保育計画指導案の立て方② つけさせたい力</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 実習先の制度的理解</li> <li>10. 保育士に必要とされる専門性</li> <li>11. 実習に関わる演習①一手指遊び</li> <li>12. 実習に関わる演習②一絵本の読み聞かせ</li> <li>13. 実習直前指導</li> <li>14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化</li> <li>15. 実習報告会</li> </ol> |
|--|--|

<p><b>[教科書]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小椋智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込)</li> <li>・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750 円</li> </ul>	<p><b>[参考書]</b></p>
--	---------------------

**アクティブラーニングへの取り組み**

○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他:

**実務経験**

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

<b>保育実習 I (福祉施設)</b>		講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数 実・2単位・回 [学修準備時間]	
<b>教員</b> 板倉 史郎, 本田 和隆, 他	年次・学期 2年・前集	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感
<b>授業の目的・内容</b>			
<b>【授業の目的と概要】</b> 本実習は、保育士資格を取得するための実習である。実習を通じて保育士として必要な知識と技術を見につけ、保育士として必要な資質を向上させることを目的としている。 保育実習 I (福祉施設)では、福祉施設の活動に参加し、実習指導者の指導のもと、保育士の業務と役割について実践的に学ぶ。また、活動に関わる計画、子どもや利用者の発達に応じた関わり方を学ぶ。		<b>【到達目標】</b> ・児童福祉施設の機能、社会的役割および保育士の業務について理解する ・保育士の姿から利用者との関わり方の実際を学ぶ ・保育計画(自立支援計画)の立案を学ぶ ・保育士として必要な資質および知識・技術を身につける ・保育に対する考え方を深める	
<b>履修のルール</b>			
<b>【履修のルール】</b> ・保育実習指導 I (福祉施設) への事前指導の出席が 4/5 に満たない者については、本実習への参加を認めない。 ・宿泊が伴う場合、宿泊費などは自己負担となる。		<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b> ・実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。 <b>【課題に対するフィードバックの方法】</b> ・実習後に個人面談を行い、実習圏の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。 [オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。	
<b>評価基準・評価方法</b>			
種類	割合(100%)	基準・方法	
期末試験	0		
期末レポート	0		
その他	100	・実習施設による評価(75%) ・実習日誌(25%)	
<b>授業計画</b>			
1. 実習ハンドブック 参照	9.		
2.	10.		
3.	11.		
4.	12.		
5.	13.		
6.	14.		
7.	15.		
8.			
<b>【教科書】</b> ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750円 ・小椋智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込)		<b>【参考書】</b>	
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>			
PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:
<b>実務経験</b>			
小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。			



保育実習指導 I (福祉施設)

講義/演習/実技実習・単位数・回数  
演・1単位・15回

[学修準備時間 15]

教員	年次・学期	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
板倉 史郎, 本田 和隆	(1年後)・2 年前	[保必]	○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

授業の目的・内容

<b>【授業の目的と概要】</b>	<b>【到達目標】</b>
本授業は、保育実習 I (福祉施設)の参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。 講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び福祉施設を取り巻く環境を理解することを目的としている。福祉施設の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。	・実習の目的を理解し、実習課題を明確にする ・福祉施設の制度的理解を深める ・福祉施設を利用する利用者と家族の生活を理解し、必要とされる支援の概要を学ぶ ・保育士として求められる基礎的な知識、技能の活用方法を学ぶ ・利用者の発達の基礎知識に基づき、レクリエーション案が作成できる ・実習記録が書ける

履修のルール

<b>【履修のルール】</b>	<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b>
・事前指導は 4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと(板倉研究室) ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある	・毎時、提示される課題等は必ず行うこと。 <b>【課題に対するフィードバックの方法】</b> ・提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。 【オフィスアワー】:特に設けませんが、必要に応じて研究室を訪ねること。

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	・授業に取り組む姿勢(受講態度)(30%) ・授業における参加状況(15%) ・実習課題提出、到達状況(35%) ・実習後の振り返り、まとめ、報告(20%)

授業計画

1. オリエンテーション(福祉施設実習とは)	9. 実習先の制度的理解
2. 福祉施設実習の必要性	10. 福祉施設での保育士に必要とされる専門性
3. 実習目的を基にした実習生カードの指導、記入	11. 実習に関わる演習①レクリエーションの指導について
4. 実習目的に基づく自己課題の明確化	12. 実習に関わる演習②日常生活での関わりについて
5. ソーシャルスキルに関わる演習	13. 実習事前指導
6. 福祉施設実習記録の書き方①目標の立て方、記録の書き方を中心に	14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化
7. 福祉施設実習記録の書き方②考察の書き方を中心に	15. 実習報告会
8. 保育計画指導案の立て方	

<b>【教科書】</b>	<b>【参考書】</b>
・小椋智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込) ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750円	

アクティブラーニングへの取り組み

○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他:

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

保育実習Ⅱ

講義/演習/実技実習・単位数・回数

実・2単位・回

[学修準備時間]

教員

年次・学期

関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連

板倉 史郎, 本田 和隆, 他

2年・前集

[保選]

○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性

- DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

授業の目的・内容

【授業の目的と概要】

本実習は、保育実習Ⅰ（保育所・福祉施設）の内容をふまえた応用実習である。乳児、障害児も対象とした、実習経験の集大成となる責任実習である。実習を通じ、保育士として必要な資質、技能を習得するだけでなく、家族や地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解、判断力を養い、子育てを支援するために必要な能力を養うことを目的としている。

【到達目標】

- ・保育士として必要な資質、技能を習得する
- ・子どもの発達に応じた教材選択ができる
- ・教材研究の姿勢を身につける
- ・保育計画(保育指導案)を立案、実施し、子どもの発達に応じた関わりだけでなく、子ども一人一人への配慮を考えることができる
- ・子ども家庭福祉ニーズを知り、子育て支援の実際を理解する
- ・子どもの最善の利益についての考察を深め、保育観を養う

履修のルール

【履修のルール】

・保育実習指導Ⅱへの事前指導の出席が4/5に満たない者については、本実習への参加を認めない。

【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】

・実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。

【課題に対するフィードバックの方法】

・実習後に個人面談を行い、実習園の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。

【オフィスアワー】:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	・実習評価(75%) ・実習記録の内容(25%)

授業計画

1. 実習ハンドブックほか 参照	9.
2.	10.
3.	11.
4.	12.
5.	13.
6.	14.
7.	15.
8.	

【教科書】

【参考書】

- ・小櫃智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込)
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750円

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

幼児教育科 2年次 講義要綱

# 保育実習指導Ⅱ

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数

演 ・ 1 単位 ・ 15 回

[学修準備時間 15]

教員	年次・学期	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
板倉 史郎, 本田 和隆	2年・前	[保選]	○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

## 授業の目的・内容

### 【授業の目的と概要】

**【授業の目的】**  
本授業は、保育実習Ⅱに参加するための事前、事後指導を行うことを目的とする。

**【授業の概要】**  
講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連付け、子ども理解と豊かな実践力の応用を養うこと、子どもを取り巻く環境を子育て支援、地域支援の立場から観察し、保育実践を行う。

### 【到達目標】

- ・子どもの発達や成長を理解した実習記録が書ける。
- ・子どもの発達を見据えた指導計画案が立案できる。
- ・実習先の制度的理解、施設の役割が理解できる。
- ・子育て支援、地域支援の目的、目標が理解できる。
- ・保育者として必要な力を身に着けている。

## 履修のルール

### 【履修のルール】

- ・事前指導は 4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと(板倉研究室)。
- ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある。

### 【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】

- ・毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

### 【課題に対するフィードバックの方法】

- ・提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。
- 【オフィスアワー】:特に駿けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

## 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に取り組む姿勢(受講態度)(30%)</li> <li>・授業における参加状況(15%)</li> <li>・実習課題提出、到達状況(35%)</li> <li>・実習後の振り返り、まとめ、報告(20%)</li> </ul>

## 授業計画

- |                             |                        |
|-----------------------------|------------------------|
| 1. オリエンテーション(保育実習Ⅱの位置づけと取組) | 9. 保育計画書の改善ポイント        |
| 2. 実習目的に合わせた自己課題の明確化        | 10. 子育て支援と保育環境         |
| 3. 実習手続きと実習生カード作成           | 11. 保育者に必要とされる専門性      |
| 4. 保育者から見た実習日誌の書き方          | 12. 保育所の役割と地域支援        |
| 5. 実習生に求められる力               | 13. 実習直前指導             |
| 6. 多角的に見る実習とその記録の書き方        | 14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化 |
| 7. 応用的な計画(保育業)の立案           | 15. 実習報告会 まとめ          |
| 8. 保育計画書の実施                 |                        |

### 【教科書】

- ・小畑智子ほか『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,650(税込)
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750円

### 【参考書】

## アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	その他:

## 実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
**保育実習Ⅲ** 実・2単位・回  
 [学修準備時間]

教員 年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連  
 板倉 史郎, 本田 和隆, 他 2年・前集 [保選] ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性  
 - DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

<p><b>[授業の目的と概要]</b>                  本実習は、保育実習Ⅰ（保育所）の内容をふまえた応用実習である。実習経験の集大成となる指導実習である。実習を通じ、福祉施設職員に必要な資質、技能を習得するだけでなく、家族や地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解、判断力を養い、子育てを支援するために必要な能力を養うことを目的としている。</p>	<p><b>[到達目標]</b>                  ・保育士として必要な資質、技能を習得する。                  ・子どもの発達に応じた教材選択ができる。                  ・教材研究の姿勢を身につける。                  ・自立支援計画を立案、実施し、子どもの発達に応じた関わりだけでなく、子ども一人一人への配慮を考慮することができる。                  ・子ども家庭福祉ニーズを知り、子育て支援の実態を理解する。                  ・子どもの最善の利益についての考察を深め、保育観を養う。</p>
---	--

**履修のルール**

<p><b>[履修のルール]</b>                  ・保育実習指導Ⅲの出席が4/5に満たない者は実習への参加を認めない。                  ・課題は期日厳守で必ず行うこと。                  ・児童館実習を行うものは「児童館の機能と運営」「児童館の活動内容と指導法」を同時に履修すること。</p>	<p><b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>                  ・実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。  <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>                  ・実習後に個人面談を行い、実習箇の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。                  [オフィスアワー]:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。</p>
--	--

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	・実習施設による評価(75%) ・実習日誌(25%)

**授業計画**

1. 実習ハンドブック 参照	9.
2.	10.
3.	11.
4.	12.
5.	13.
6.	14.
7.	15.
8.	

<p><b>[教科書]</b>                  ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750円</p>	<p><b>[参考書]</b></p>
---	---------------------

**アクティブラーニングへの取り組み**

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

**実務経験**

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

# 保育実習指導Ⅲ

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数

演 ・ 1 単位 ・ 15 回

[学修準備時間 15]

教員	年次・学期	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
板倉 史郎, 本田 和隆	2 年・前	[保選]	○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 - DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感

## 授業の目的・内容

### [授業の目的と概要]

**【授業の目的】**  
本授業は、保育実習Ⅲに参加するための事前、事後指導を行うことを目的とする。

**【授業の概要】**  
講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連付け、子どもや障害者理解と豊かな実践力の応用を養うこと、および学童保育、障害者施設などを利用する利用者を取り巻く環境を理解することを目的としている。保育実習指導Ⅲでは、実施される保育実習Ⅲの実習のための事前・事後指導を行う。児童館や障害者施設での現状を理解し、そこで求められる保育の力量を高めるための講義・演習を行う。

### [到達目標]

- ・保育実習Ⅲの内容に即した事前準備ができる。
- ・実習先の制度的理解、施設の役割が理解できる。
- ・学童保育や障害児・者施設の制度的理解を深める。
- ・学童保育、障害児・者施設を利用する利用者の背景も理解し、必要とされる支援の方法を模索できる。
- ・学んだ知識に基づき、保育計画やレクリエーション案が立案できる。

## 履修のルール

### [履修のルール]

- ・児童館実習者は「児童館の機能と運営」「児童館の活動内容と指導法」を履修すること。
- ・本授業は、保育実習Ⅲに参加するための事前、事後指導を行う。事前指導は4/5以上の出席で保育実習Ⅲに参加できる。

### [予習・復習の方法「自主学習ガイド」]

- ・毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

### [課題に対するフィードバックの方法]

- ・提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。【オフィスアワー】:特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

## 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に取り組む姿勢(受講態度)(30%)</li> <li>・授業における参加状況(15%)</li> <li>・実習課題提出、到達状況(35%)</li> <li>・実習後の振り返り、まとめ、報告(20%)</li> </ul>

## 授業計画

- |                                |                        |
|--------------------------------|------------------------|
| 1. オリエンテーション(保育実習Ⅲの位置づけと取組)    | 9. 実習先の制度的理解           |
| 2. 実習目的に合わせた自己課題の明確化           | 10. 保育者に必要とされる専門性      |
| 3. 実習手続きと実習生カード作成              | 11. 実習生として福祉施設で学ぶこと    |
| 4. ソーシャルスキルに関わる演習①グループディスカッション | 12. 施設の役割と地域支援         |
| 5. ソーシャルスキルに関わる演習②実習に必要な力      | 13. 実習前指導              |
| 6. 実習日誌(記録)の書き方                | 14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化 |
| 7. 実習日誌(記録)に必要なことを書くために        | 15. 実習報告会 まとめ          |
| 8. 応用的な計画(レクリエーション案や保育案)の立案    |                        |

### [教科書]

・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通)750円

### [参考書]

## アクティブラーニングへの取り組み

○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他:

## 実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

器楽活用法 I 講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
演 ・ 1 単位 ・ 8 回  
[学修準備時間 30]

教員 寄 ゆかり	年次・学期 2年・後	関連資格・必修/選択 [保選]	ディプロマポリシー(DP)との関連 - DP1:情熱・使命感 ◎ DP2: 知識・技術 - DP3:探究・主体性 - DP4:人権・共感
-------------	---------------	--------------------	--

**授業の目的・内容**

<p><b>【授業の目的と概要】</b></p> <p>・保育に必要な音楽技術と知識、ピアノ等鍵盤楽器他、打楽器などの演奏法を習得する。幼児教育では、合奏や音楽あそびを多く取り入れるため、様々な楽器の演奏法を習得し、それぞれの楽器のリズム・配置・アレンジなどを工夫でき、幼児に指導できるようになることを目指す。</p>	<p><b>【到達目標】</b></p> <p>・幼児保育における合奏・音楽遊びの指導ができる。指導計画が立案できる。 ・ピアノ習熟度に合わせた形で、弾き歌いコード伴奏のアレンジができる。</p>
---	--

**履修のルール**

<p><b>【履修のルール】</b></p> <p>・「保育内容の指導法（音楽表現Ⅰ・Ⅱ）」受講済みであることが望ましい。 ・楽器演奏の妨げとならないよう、爪は短く切っておく。</p>	<p><b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b></p> <p>・合奏曲などは、事前に自主練習をして授業に臨むこと。 ・授業時に提示された課題は、必ず復習しておくこと。 <b>【課題に対するフィードバックの方法】</b> 課題レポート等については、個別指導を行う。また GoogleClassroom にて回答を行う。 【オフィスアワー】:随時</p>
--	---

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	60	実技試験（ソロ 30 点、グループ合奏 30 点・・・授業時の取り組み状況も含む）
期末レポート	0	
その他	40	ミニチェック、課題レポート等の取り組み状況、グループ活動への参加状況等総合的に判断する。

**授業計画**

1. 幼児曲の合唱①（春）/歌唱指導の指導計画案	9.
2. 幼児曲の合唱②（夏）/音楽遊びの指導計画案	10.
3. 一段論によるコード伴奏/音楽指導計画案の実施	11.
4. コード伴奏の変奏	12.
5. 遊びの中の音楽①（楽器を使用しない）	13.
6. 遊びの中の音楽②（ピアノを使用しない）	14.
7. ピアノ弾き歌い、ハッドアレンジによる合奏作成	15.
8. ピアノ弾き歌い、合奏曲練習	

<p><b>【教科書】</b></p> <p>プリント等配付（貼付できるノートは各自で準備、毎回持参すること。）</p>	<p><b>【参考書】</b></p>
--	---------------------

**アクティブラーニングへの取り組み**

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:

**実務経験**

音楽教室においては、3 歳児から 70 代までの幅広い層にピアノ、エレクトーンでの鍵盤指導及び管楽器、打楽器指導を中心としたアンサンブル教育も行う。また現役保育者に対する保育内容に関する実技講習などの研修を多く行っている。

こども音楽療育演習

講義/演習/実技実習・単位数・回数

演・1単位・8回

[学修準備時間 30]

教員	年次・学期	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
寄 ゆかり	2年・集	[保選]	○ DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 ◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

授業の目的・内容

[授業の目的と概要]

「こども音楽療育概論」で学んだ知識・身に付けた技術を基礎として、音楽療育の実践を行い、必要な技法を習得する。また、様々な対象者に合わせた音楽プログラムを作成し実践できることを目標とする。音楽療育の実習場面を想定し、その手順を理解し、援助者としての効果的なかかわり方、音楽による具体的な援助方法を習得する。  
ピアノ、打楽器、管楽器をはじめとして、様々な楽器の演奏法を取得し音楽療育に活用し、手遊びや音楽による身体遊び、歌唱をプログラムに取り入れ実践できることを目指す。

[到達目標]

- ・音楽療育に必要な演奏技術を身につけている。
- ・場面に応じた楽器の選択、選曲ができる。
- ・支援プログラムの立案ができる。

履修のルール

[履修のルール]

・本科目受講にあたっては、こども音楽療育概論の単位を習得済みであること。もしくは受講中であること。

[予習・復習の方法「自主学習ガイド」]

- ・授業時には、演奏や教材研究などの課題を提示する。必ず行って、次の授業に臨むこと。
- ・グループワークも多いため、各人が提示された課題は必ず行っておくこと。

[課題に対するフィードバックの方法]

[オフィスアワー]:

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	60	グループによる演奏発表(30)及びプログラム案の作成(30)
期末レポート	0	
その他	40	チームとしてのグループワークへの取り組み状況及び授業時に提示する課題の提出状況と達成度

授業計画

- |                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| 1. 音楽療育での楽器の活用法①-小物楽器を中心に       | 9.  |
| 2. 音楽療育での楽器の活用法②-音楽療法用楽器やラテン楽器  | 10. |
| 3. 手遊び・歌遊びを使用した発達援助の方法と実践       | 11. |
| 4. 音楽身体遊びを使用した発達援助の方法と実践        | 12. |
| 5. 発達援助をふまえた、音楽プログラムの作成方法       | 13. |
| 6. 歌唱を使用した発達援助の方法と実践、プログラムを見据えて | 14. |
| 7. プログラム作成~療育で子どもとともにアンサンブルする~  | 15. |
| 8. プログラムの改善を演習に活かすために           |     |

[教科書]

不要(授業時に資料配布)  
※ファイルや楽譜の貼れるスケッチブックなどを持参すること。

[参考書]

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	○	反転授業	ディスカッション、ディベート	○	グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	双方向アンケート		その他:

実務経験

--

こども音楽療育実習 講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
実・1単位・15回  
[学修準備時間 15]

教員 年次・学期 関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連  
大浦 知加 2年・集 [保選] ○ DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性  
◎ DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

**授業の目的・内容**

<p><b>【授業の目的と概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「こども音楽療育概論」で学んだ知識、技術を基礎として、音楽療育の実践を行い、必要な技法を習得する。</li> <li>・「こども音楽療育演習」で学んで作成した様々な対象者に合わせて作成したプログラムをもとに、実践する。</li> <li>・療育や保育現場において、発達を援助するための効果的な音楽の奏法を習得する。</li> <li>・保育の現場での実習を行い、音楽による具体的な援助法を学び、自らの振り返りをおこなうことにより、実習を質の向上をはかる。</li> </ul>	<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場に合わせた音楽プログラムを作成することができる。</li> <li>・現場にあわせた音楽プログラムを実施することができる。</li> <li>・療育や保育現場における、発達を援助するための効果的な音楽奏法を用いることができる。</li> <li>・プログラムを実施するための演奏技術を身につける。</li> </ul>
---	--

**履修のルール**

<p><b>【履修のルール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「こども音楽療育概論」の単位を履修済みであること。</li> <li>・「こども音楽療育演習」を並行して受講すること。</li> <li>・本科目では、実習前指導、実習、事後指導を含めた科目である。</li> <li>・事前事後指導のみでの単位取得は不可。</li> </ul>	<p><b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時には、演奏や教材研究などの課題を提示する。必ず行って、次の授業に臨むこと。</li> <li>・グループワークも多いため、各人が提示された課題は必ず行っておくこと。</li> </ul> <p><b>【課題に対するフィードバックの方法】</b> 授業内にフィードバックする。また、随時メールやClassroomを活用して行う。 【オフィスアワー】:火～金(研究室)</p>
--	---

**評価基準・評価方法**

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に取り組む姿勢(70%)</li> <li>・プログラム・実習振り返りレポート(30%)</li> </ul>

**授業計画**

<p>1. 音楽療育の手順①(対象者と目標の直定・発達支援のための音楽を理解する)</p> <p>2. 音楽療育の手順②(プログラムの作成とロールプレイ)</p> <p>3. 音楽療育体験実習①(地域ワークショップ) 一楽器づくり・音楽遊び・身体遊びの展開を学ぶ</p> <p>4. 改善案をもとにしたプログラム案とロールプレイ</p> <p>5. 音楽療育参加実習②(保育所・幼稚園～統合保育) 一さまざまな年齢に応じた音楽療育の展開を学ぶ</p> <p>6. 音楽療育参加実習②(こども園～統合保育) 一こどもの発達に応じた音楽療育の展開を学ぶ</p> <p>7. 音楽療法の楽器を用いたプログラム案を作成する</p> <p>8. ロールプレイを行いプログラムをより良く完成させる</p>	<p>9. 音楽療育参加実習③(音楽療法の楽器を用いた実践) 一場に応じた音楽療育の展開を学ぶ</p> <p>10. 音楽療育参加実習③(音楽療法の楽器を用いた実践) 一様々な年齢に応じた展開を学ぶ</p> <p>11. 発達支援と音楽療法の楽器、音楽遊びの効用を踏まえたプログラム案作成</p> <p>12. ロールプレイを行いプログラムをより良く完成させる</p> <p>13. 音楽療育施設実習④(発達支援) 一様々な発達に応じた音楽療法の援助を学ぶ</p> <p>14. 音楽療育施設実習④(発達支援) 一音楽療法楽器を用いた様々な発達援助セッションの実践</p> <p>15. 実習の振り返りと実習報告書作成</p>
--	---

<p><b>【教科書】</b></p> <p>編著：木村鈴代『新しい子どものうたあそび』同文書院 授業内で紹介する。 ¥2,420</p> <p>編著：伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』ドレミ楽譜 出版¥1,980(税込)</p> <p>※すべて1回生時の教科書を使用 ・音楽療育学外実習 一部、交通費自己負担</p>	<p><b>【参考書】</b></p>
---	---------------------

**アクティブラーニングへの取り組み**

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:学生による創作表現・実習発表

**実務経験**

音楽療法士として施設や病院への訪問演奏、障がいを持つこどもへの音楽療法等を行っている。



# ゼミナールⅠ

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数

演 ・ 2 単位 ・ 30 回

[学修準備時間 30]

教員

板倉 史郎

年次・学期

1年・通

関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連

[保必]

- DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性
- DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感

## 授業の目的・内容

### [授業の目的と概要]

【前期】大学での学び方（ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など）を、全ゼミ同様に学んでいく。

#### 【後期】

- ・保育者に必要な資質、能力について考える。
- ・保育を巡る情勢について学ぶ。

### [到達目標]

#### 【前期】

- 1)大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。
- 2)大学での授業を受講し、定められた課題に対応できる。

#### 【後期】

- 1)自分がめざす保育者像を持つことができる。
- 2)保育や子どもを巡って、どのようなことが起り、問題になっているかについて学ぶことで関心を深める。

## 履修のルール

### [履修のルール]

- ・課題については、当日までにやり遂げる
- ・自分の意見や考えをもって、ゼミに参加する。

### [予習・復習の方法「自主学習ガイド」]

- ・その都度、直接指導、連絡する。
- ・子どもや保育に関するニュース等に関心をもち、自分なりに理解できるように取り組む。

### [課題に対するフィードバックの方法]

- ・面談で知らせる。
- [オフィスアワー]: ・特に設けませんが、随時受け付ける。

## 評価基準・評価方法

種類 割合(100%) 基準・方法

期末試験

0

期末レポート

0

その他

100

・課題に対する取組、提出課題、発表等を総合的に評価する。

## 授業計画

- |  |   |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. (プレゼミ)大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～</li> <li>2. 指す夢は同じ～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～</li> <li>3. 入学前課題の確認①<br/>保育者に必要な資質、教養力を理解する</li> <li>4. 入学前課題の確認②<br/>幼児教育には欠かせない「絵本」を通して</li> <li>5. 入学前課題の確認③<br/>「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～</li> <li>6. 入学前課題の確認④<br/>自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～</li> <li>7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～</li> <li>8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～</li> <li>9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～</li> <li>10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～</li> <li>11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～</li> <li>12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上</li> <li>13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価</li> <li>14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く)</li> <li>15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する)</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>16. ゼミでの取組紹介と意見交換</li> <li>17. 保育、子どもに関する関心事項について交流とそれに対する意見</li> <li>18. 関心事項の発表と意見交流1 児童虐待</li> <li>19. 関心事項の発表と意見交流2 子どもの貧困</li> <li>20. 関心事項の発表と意見交流3 単親世帯</li> <li>21. 日本の保育制度について1 幼児教育制度</li> <li>22. 日本の保育制度について2 保育制度</li> <li>23. 初めての保育実習に向けて</li> <li>24. 保育実習を終えて</li> <li>25. 世界の保育制度について1 欧米諸国</li> <li>26. 世界の保育制度について2 アジア諸国</li> <li>27. 保育者の置かれている現状について1 労働時間を中心に</li> <li>28. 保育者の置かれている現状について2 待遇を中心に</li> <li>29. 保育者と保護者との関係について</li> <li>30. 1年のまとめと2回生への課題、抱負</li> </ol> |
|--|---|

### [教科書]

なし

### [参考書]

- ・ゼミの時間に随時紹介する。

## アクティブラーニングへの取り組み

○ PBL(課題解決型学習)	反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	その他:

## 実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

ゼミナールⅠ

講義/演習/実技実習・単位数・回数

演・2単位・30回

【学修準備時間 30】

教員	年次・学期	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
大浦 知加	1年・通	[保必]	○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感

授業の目的・内容

<p><b>【授業の目的と概要】</b></p> <p>【前期】大学での学び方（ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など）を、全ゼミ同様に学んでいく。</p> <p>【後期】「音楽表現コミュニケーション」ゼミ：目に見えない「音楽」を目に見えるモノでサポートしながら表現し、こどもにわかりやすい形で関わる方法を展開していく。</p> <p>また、保育現場で使用する和太鼓・ベル・鍵盤ハモ等を体験をする。</p>	<p><b>【到達目標】</b></p> <p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。</li> <li>2) 大学での授業の受講をし、定められた課題に対応できる。</li> </ol> <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 目に見える「手作り魔法のパネルシアター」等でサポートしながら音楽遊びを展開し、こどもの発達や興味・関心に合わせて関わる方法を理解できる。</li> <li>2) 様々な音楽表現活動に意欲的に参加できる。</li> </ol>
--	--

履修のルール

<p><b>【履修のルール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共に学び合う積極的な姿勢と、周りを見渡す広い視野を持つ</li> <li>・音楽表現活動に楽しんで参加する</li> </ul>	<p><b>【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画等を活用し、音楽遊びを幅広く知る。</li> <li>・こどもの発達を考慮し、どのような環境で行うか考えてみる。</li> </ul> <p><b>【課題に対するフィードバックの方法】</b></p> <p>個々に対応していく。</p> <p>【オフィスアワー】：火曜～金曜（研究室）</p>
---	--

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	ゼミ内での取り組み、意欲、姿勢、発表を総合評価する。

授業計画

1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～	16. "専門ゼミ「音楽コミュニケーション」ゼミ 耳から聞こえる「音楽」を、目に見えるモノで支えて表現し、こどもたちと関わる方法を探究する。"
2. 目指す夢は同じ～大学での夢を語り合う（各プレゼミごとの自己紹介を適して）～	17. 音楽遊びで自己紹介・ゼミでの夢を語り合う
3. 入学前課題の確認① 保育者に必要な国語、数学力を理解する	18. 音楽遊び①歌にできること（あやし歌・手遊び歌・遊び歌）
4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して	19. 個人面談と、音楽遊び①歌を支えるモノを創作（魔法のパネルシアター、手遊びや歌詞の創作）
5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～	20. 音楽遊び①歌と目に見える創作物との共演実践
6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～	21. 音楽遊び②楽器にできること（和太鼓・トーンチャイム・ベル・鍵盤ハモ・手作り楽器）
7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～	22. 音楽遊び②こどもの発達、興味関心に合わせて楽器演奏
8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～	23. 2回生と音楽交流会
9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～	24. 音楽遊び③音楽ゲームにできること
10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～	25. 個人面談と、音楽遊び③チームで音楽ゲームを創作
11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～	26. 研究課題について協働創作（楽器を使った合奏と創作：音楽・造形表現の視点から）
12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上	27. 研究課題について協働創作（ダンス：身体表現の視点から）
13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価	28. 研究課題について協働創作（音楽遊び：音楽・言語表現の視点から）
14. 専門ゼミを知る（2回生の研究テーマを聞く）	29. ゼミ発表リハーサル：演者と観客で音楽を共有する環境を体験
15. 専門ゼミを選択する（各自で見学、体験し、決定する）	30. ゼミ発表会（アリーナ）

<b>【教科書】</b>	<b>【参考書】</b>
	授業内で紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	その他：

実務経験

保育園・こども園・小学校・中学校・高校、専門学校音楽講師勤務の経験と、現場保育者や教員への音楽指導経験を生かした指導法を展開する。また長年、0歳～大人までのピアノ指導や親子リトミック・音楽遊び指導を行い、和楽器・管弦打楽器こどもオーケストラや舞台イベントを主催・指導。自身も和太鼓やピアノによる舞台表現家である。

ゼミナールⅠ

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数

演・2単位・30回

[学修準備時間 30]

教員	年次・学期	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
土居 隆	1年・通	[保必]	○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感

授業の目的・内容

<p><b>【授業の目的と概要】</b></p> <p><b>【前期】</b> 大学での学び方(ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など)を、全ゼミ同様に学んでいく。</p> <p><b>【後期】</b> 本ゼミは、特別支援教育について各自テーマを設定し、疑問に感じたことを自発的に調べ解決することなどを通し探求を進める。近年の動向や最新のニュースやSNSでの話題などについても、根拠を持って考えることができることを目的とする。</p>	<p><b>【到達目標】</b></p> <p><b>【前期】</b> 1) 大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。 2) 大学での授業の受講をし、定められた課題に対応できる。</p> <p><b>【後期】</b> 1) 発達障害の子どもの言動の背景にある心情や困り感を理解するとともに、保育者としての適切な関わりについて説明できる。 2) 最新のニュースなどにおける話題にみられる特別支援教育の状況や課題について、根拠を持って自分の意見を述べるができる。</p>
--	---

履修のルール

<p><b>【履修のルール】</b></p> <p>ゼミナールの中で感じた疑問や分からないことについては積極的に発言し、互いに解決していくこと。最新のニュースやSNSでの話題などにも関心を持ち、根拠を持って考えるよう意識すること。</p>	<p><b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b></p> <p>予習：不明な用語や言葉の確認・課題は滞りなく準備(60分) 復習：興味を持った事柄について文献やインターネット等で調べる・課題は指摘された点を修正(60分)</p> <p><b>【課題に対するフィードバックの方法】</b> 授業内でフィードバックを行う。また、随時Classroomを活用して行う。 【オフィスアワー】:火曜以外の昼休み(研究室)</p>
---	--

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	各授業の授業内課題及びミニレポート、課題の内容により総合的に判断する。

授業計画

1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～	16. オリエンテーション：ゼミ概要説明
2. 目指す夢は同じ～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～	17. 特別支援教育に関する疑問 発表テーマの検討
3. 入学前課題の確認①	18. 発達障害と子どもの心情の理解①自閉スペクトラム症
4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して	19. 発達障害と子どもの心情の理解②ADHD
5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～	20. 発達障害と子どもの心情の理解③LD
6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～	21. 特別支援教育の実践を知る①ユニバーサルデザインの保育
7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～	22. 特別支援教育の実践を知る②ポジティブ行動支援
8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～	23. 特別支援教育の実践を知る③ABAによるインクルーシブ教育
9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～	24. ゼミ発表会に向けて①先行研究を知る
10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～	25. ゼミ発表会に向けて②構成の検討
11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～	26. ゼミ発表会に向けて③考察について
12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上	27. ゼミ発表会に向けて④発表原稿の作成
13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価	28. ゼミ発表会に向けて⑤発表資料の作成
14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く)	29. ゼミ発表会
15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する)	30. まとめと振り返り 2回生に向けて

<b>【教科書】</b> 授業時に適宜資料、プリントを配布する。	<b>【参考書】</b>
-------------------------------------	--------------

アクティブラーニングへの取り組み

○ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

実務経験

小学校の学級担任、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーターとして勤務  
指導主事として巡回相談、臨床心理士として発達相談を担当

幼児教育科  
1年次  
講義要綱

ゼミナールI

講義/演習/実技実習・単位数・回数

演・2単位・30回

【学修準備時間 30】

教員	年次・学期	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
東 景子	1年・通	[保必]	○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感

授業の目的・内容

【授業の目的と概要】	【到達目標】
【前期】 大学での学び方（ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など）を、全ゼミ同様に学んでいく。	【前期】 1)大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。 2)大学での授業を受講し、定められた課題に対応できる。
【後期】 乳幼児が園生活を楽しめる様なペープサート（紙人形）や季節のクラフト制作をし、学生自身が創作活動を楽しみ、創意工夫する力を身に付ける事を目的とする。	【後期】 1)表現したい対象やテーマを考え、簡単な人形制作と季節に応じたクラフト制作が出来る。 2)保育・教育現場で活用する事を想像しながら制作する事が出来る。

履修のルール

【履修のルール】	【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】
・グループワークも多いため、一人一人が積極的な姿勢で取り組む。 ・特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装がエプロン等を持参の上受講する事。	予習：事前に提示された課題について、創作のヒントとなる童謡や絵本、おはなしなどの参考資料を図書館やインターネットで調べて収集する。復習：提供した資料を整理しながら、次回に向けて質問事項をまとめる。 【課題に対するフィードバックの方法】 ゼミの話し合いの中で、毎回対面で指導を行う。 【オフィスアワー】：月火水金の昼休み、研究室

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	準備物、授業への取り組み姿勢、課題の作品や発表内容を総合的に評価する。

授業計画

1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～	16. 造形ゼミオリエンテーションー課題説明やテーマについてー
2. 目指す夢は同じ～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～	17. グループワーク、制作発表に向けての課題設定①
3. 入学前課題の確認①	18. グループワーク、制作発表に向けての準備②
4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して	19. グループワーク、制作発表に向けての完成③
5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～	20. 実習に向けて①童謡の紹介 登場人物のペープサートの情報収集
6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～	21. 実習に向けて②おはなしの紹介 登場人物のペープサート制作
7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～	22. 実習に向けて③ペープサートの完成
8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～	23. 2回生と実習についての意見交流会
9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～	24. 児童館との交流に向けてー保育に活かす造形①・情報収集
10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～	25. 児童館との交流に向けてー保育に活かす造形②・試しと材料準備
11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～	26. 児童館との交流に向けてー保育に活かす造形③・制作～完成
12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上	27. 児童館との交流(課外活動)
13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価	28. イベントの振り返りと反省
14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く)	29. 子どもと楽しむ素材の研究①
15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する)	30. まとめ半年の振り返りと資格の課題説明ー

【教科書】	【参考書】
必要に応じてプリント資料を配布する。 購入の画材一式	

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="radio"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> 反転授業	<input type="radio"/> ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> グループワーク
<input type="radio"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="radio"/> 実習、フィールドワーク	<input type="radio"/> 双方向アンケート	その他:

実務経験

小中学校の図画工作・美術と併設の特別支援学級の美術(非常勤講師・常勤講師)、社会人向けの生涯学習(木版画教室)講師

ゼミナールⅠ

講義/演習/実技実習・単位数・回数

演・2単位・30回

[学修準備時間 30]

教員 寄 ゆかり	年次・学期 1年・通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感
-------------	---------------	--------------------	---

授業の目的・内容

<b>【授業の目的と概要】</b>	<b>【到達目標】</b>
<p>【前期】 大学での学び方(ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など)を、全ゼミ同様学んでいく。</p> <p>【後期】 本ゼミは、「音楽表現 アンサンブル」ゼミとして音楽表現の様々なあり方を考える。音楽=ピアノだけではなく、1回生では、まず「自分が音楽を聴いてほっとする。」「歌うと元気が出る」とはどういうことか。実際に自身が体験することから始め、追求していく。</p>	<p>【前期】 1) 大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。 2) 大学での授業の受講をし、定められた課題に対応できる。</p> <p>【後期】 1) 提示された課題曲演奏(歌、合奏など)に、積極的に取り組める。 2) 演奏の幅を広げる(楽器の種類、音域、ジャンルなど)努力ができる。 3) 様々な音楽表現を追求することにより、幼児教育の場での音楽表現の方法を考えることができる。</p>

履修のルール

<b>【履修のルール】</b>	<b>【予習・復習の方法「自主学習ガイド」】</b>
・音楽表現は技術力で「上手」「下手」と判断するのではない。取り組む姿勢と、「人に伝わる演奏をするためにはどうしたらよいのか」を考えていく姿勢があることが重要である。	事前に提示された課題については、必ず予習(曲の場合は練習)しておくこと。予習の方法は示しているが、わからない場合は放置せず、質問しながら到達できるようにしておく。 <b>【課題に対するフィードバックの方法】</b> 各自の課題については、できるだけ対面で個別に指導を行う。 【オフィスアワー】: (火)(水)(木)(金)の在室時

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	・各授業での課題と課題追求に取り組む姿勢、課題の達成度、チームでの曲への取り組み協力度など総合的に判断する。

授業計画

1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～	16. 専門ゼミ「音楽表現 アンサンブル」とは。ゼミでの夢を語り合う
2. 目指す夢は同じ～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～	17. 歌唱から感じること①～選曲するために～
3. 入学前課題の確認①	18. 歌唱から感じること②～曲を歌ってみる。そこから感じること～
4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して	19. 歌唱から感じること③～人に響く演奏をするには～
5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～	20. 歌唱から感じること④～演奏して、気づいたこと～
6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～	21. 歌唱から感じること⑤～気づいたことを、どう反映するが～
7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～	22. 文献研究と歌唱、合奏①～幼児曲をもとに～
8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～	23. 文献研究と歌唱、合奏②～幼児曲での合奏～
9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～	24. 文献研究と歌唱、合奏③～ポップスの体験～
10. マナー講座を通して②～演奏を伴った各自の課題を知る～	25. 文献研究と歌唱、合奏④～ポップスのノリを深める～
11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～	26. 文献研究と歌唱、合奏⑤～自分たちで合奏できる曲の選曲～
12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上	27. 文献研究と歌唱、合奏⑥～合奏のパートを換替する～
13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価	28. 文献研究と歌唱、合奏⑦～演奏する楽しさは～
14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く)	29. 文献研究と歌唱、合奏⑧～演奏を極めるには～
15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する)	30. 2回生に向けて、各自の研究課題を整理する。

【教科書】

【参考書】

アクティブラーニングへの取り組み

○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他:

実務経験

音楽教室においては、3歳児から70代までピアノ、エレクトーンでの鍵盤指導及び管楽器、打楽器指導を中心としたアンサンブル教育も行う。また現役保育者に対する保育内容に関する実技講習などの研修を多く行っている。

## ゼミナールⅡ

講義/演習/実技実習・単位数・回数

演・2単位・30回

[学修準備時間 30]

教員 板倉 史郎	年次・学期 2年・通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感
-------------	---------------	--------------------	---

### 授業の目的・内容

<b>[授業の目的と概要]</b> ・幼児教育を学んだ2年間の集大成として、各自の研究テーマに応じた卒業論文を作成するための研究を行、卒業論文にまとめる。 ・保育者の資質や能力について、研究、検討し、進路に活かす。	<b>[到達目標]</b> ・研究することの意味を理解できる。 ・自らの学びを論文で表現する力を身につけている。
---	--

### 履修のルール

<b>[履修のルール]</b> ・各ゼミの専門研究を中心とし、進める。ゼミごとの計画については、授業時に説明する。	<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b> ・課題については、当日までにやり過ぎる ・自分の意見や考えをもって、ゼミに参加する。 <b>[課題に対するフィードバックの方法]</b> ・面談で知らせる。 <b>[オフィスアワー]</b> :・特に設けませんが、随時受け付ける。
--	---

### 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	試験は実施しない。
期末レポート	0	期末レポート提出は求めない。
その他	100	・卒業論文、それに対する取組、卒論発表、提出課題等を総合的に評価する。

### 授業計画

1. 今年度の計画と関心事項について	16. 夏休みの課題報告1実習について
2. 卒業論文テーマについて	17. 夏休みの課題報告2就職活動について
3. (卒業)論文作成の方法と注意点	18. 卒業生の論文を読み、論文作成の参考にする
4. 論文の読み方、資料の検索方法	19. 保育・子どもを巡る状況の発表1児童虐待、卒論作成
5. 初めての福祉施設実習について	20. 保育・子どもを巡る状況の発表2子どもの貧困、卒論作成
6. 施設実習の振り返りと教育実習に向けて	21. 保育・子どもを巡る状況の発表3単親世帯、卒論作成
7. 教育実習の振り返り	22. 保育施設の現状について1-制度を中心に、卒論作成
8. 卒業論文テーマの振り分けと骨子作成	23. 保育施設の現状について2-子どもの実態を中心に、卒論作成
9. 卒業論文骨子の検討	24. 保育施設の現状について3-保護者を中心に、卒論作成
10. 社会に出る意味と自己実現	25. 保育施設の現状について4-保育者を中心に、卒論作成
11. 卒論テーマと方向性の発表とアドバイス会1テーマ設定を中心に	26. 保育施設の現状について4-世界に目を向けて、卒論作成
12. 卒論テーマと方向性の発表とアドバイス会2資料収集について	27. 卒業論文のまとめ方-考察とは、卒論作成
13. 卒論テーマと方向性の発表とアドバイス会3考察に関する考え方	28. プレゼンテーションの意味と方法-卒論発表に向けて、卒論作成
14. 最後の実習について	29. プレゼンテーションファイルの作成
15. 夏休みの課題について	30. 卒業論文発表

<b>[教科書]</b> なし	<b>[参考書]</b> ・ゼミの時間に随時紹介する。
--------------------	--------------------------------

### アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:

### 実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

ゼミナールⅡ	講義/演習/実技実習・単位数・回数 演・2単位・30回 [学修準備時間 30]
教員 大浦 知加	年次・学期 2年・通
関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連 [保必] ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感	
<b>授業の目的・内容</b>	
<b>【授業の目的と概要】</b> 「音楽表現コミュニケーション」ゼミ 1) 目に見えない「音楽」を目に見えるモノでサポートしながら表現し、こどもにわかりやすい形で関わる方法を展開していく。 2) こどもの発達や興味・関心に合わせ、音楽を通して関わっていく方法を創作していく。 3) どのような状況の中でも、自ら学び、共に学び合う人間関係構築力を身につけ、居場所をつくる。 4) 学生主体でゼミ発表を計画し、立案、実践する。 ◎ゼミ発表の方法として「和太鼓・音楽演奏・音楽劇」を提供する。	<b>【到達目標】</b> 1) こどもの発達や興味・関心に合わせ目に見えるモノでサポートしながら、音楽を通して関わっていくことができる。 2) 集団活動の中で他者を受容し、自らの得意を認識し、協働しながら高め合うことができる。 3) 学生主体・協働作業として共に学び合いながらゼミ発表を実践できる。
<b>履修のルール</b>	
<b>【履修のルール】</b> ・共に学び合う積極的な姿勢と、周りを見渡す広い視野を持つ	<b>【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】</b> ・動画等を活用し、音楽遊びを幅広く知る。 ・こどもの発達を考慮し、どのような環境で行うか考えてみる。 <b>【課題に対するフィードバックの方法】</b> 授業内でフィードバックを行う。また課題の種類によってはグループディスカッションを行う。 【オフィスアワー】:火曜～金曜(研究室)
<b>評価基準・評価方法</b>	
種類	割合(100%) 基準・方法
期末試験	0
期末レポート	0
その他	100 各授業での取組み、意欲、姿勢、発表を総合評価する。
<b>授業計画</b>	
1. オリエンテーション/ガイダンス 2. 春期課題によるプレゼンテーション発表とディスカッション 3. 課外学習①: 森の楽器づくり探究 4. 課外学習②: 森の楽器づくり実践 5. 保育・幼児教育における音環境と音楽表現活動の探究 6. 0歳児: 保育・幼児教育現場の表現活動について 7. 0歳児の音環境: ベビーマッサージとあやし歌 8. 1歳児: 保育・幼児教育現場の表現活動について探究 9. 1歳児の音環境: 簡単ぬいぐるみづくりと遊び歌 10. 2歳児: 保育・幼児教育現場の表現活動について探究 11. 2歳児の音環境: 魔法のパネルシアターづくりと手遊び歌 12. 3歳児: 保育・幼児教育現場の表現活動について探究 13. 3歳児の音環境: 楽器づくりと演奏 14. 4歳児: 保育・幼児教育現場の表現活動について探究 15. 4歳児の音環境: トーンチャイムとベル演奏法	16. 5歳児: 保育・幼児教育現場の表現活動について探究 17. 5歳児の音環境: 和太鼓と鼓ハモ 18. 幼小連携: 表現活動について探究 19. 幼小連携: 音楽ゲーム創作と実践 20. 課外学習①: 創作活動の準備 21. 課外学習②: 創作活動の実践 22. ゼミ発表準備①: 和太鼓を取り入れた内容・方法について検討 23. ゼミ発表準備②: 役割・担当について検討 24. ゼミ発表準備③: 環境・構成について検討 25. ゼミ発表準備④: 内容・方法について創作活動 26. ゼミ発表準備⑤: 役割・担当別に創作活動 27. ゼミ発表準備⑥: 和太鼓を取り入れた発表の改善を重ねる 28. ゼミ発表準備⑦: 演者と観客で音楽を共有する環境の探究 29. ゼミ発表リハーサル: 演者と観客で音楽を共有する環境を整える 30. ゼミ発表会(アリーナ)
<b>【教科書】</b>	<b>【参考書】</b> 授業内で紹介する。
<b>アクティブラーニングへの取り組み</b>	
○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 美習、フィールドワーク
○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 双方向アンケート	○ その他: 学生創作演奏と発表
<b>実務経験</b>	
保育園・こども園・小学校・中学校・高校、専門学校音楽講師勤務の経験と、現場保育者や教員への音楽指導経験を生かした指導法を展開する。また長年、0歳～大人までのピアノ指導や親子リトミック・音楽遊び指導を行い、和楽器・管弦打楽器こどもオーケストラや舞台イベントを主催・指導。自身も和太鼓やピアノによる舞台表現家である。	

# ゼミナールⅡ

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数

演 ・ 2 単位 ・ 30 回

[学修準備時間 30]

教員 東 景子	年次・学期 2 年 ・ 通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感
------------	------------------	--------------------	---

## 授業の目的・内容

<b>[授業の目的と概要]</b>	<b>[到達目標]</b>
平面表現である絵本作りと、空間表現である舞台美術装置のミニチュア制作を行い、保育現場での子どもたちとのコミュニケーションや舞台発表の空間演出に役立てる。卒業制作では2年分の作品を発表する。	・表現したい対象やテーマを考え、絵本作りと舞台美術装置のミニチュア制作が出来る。 ・保育・教育現場で活用する事を想像しながら制作する事が出来る。

## 履修のルール

<b>[履修のルール]</b>	<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>
グループワークも多いため、一人一人が積極的な姿勢で取り組む。特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装かエプロン等を持参の上受講する事。	予習:事前に提示された課題について、創作のヒントとなる絵本、おはなし、小説、アニメ、映画等の参考資料を調べて収集する。復習:提供した資料を整理しながら、次回に向けて質問事項をまとめる。
	<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>
	ゼミの話し合いの中で、毎回対面で指導を行う。 [オフィスアワー]:月火水金の昼休み、図工室が研究室

## 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	準備物、授業への取り組み姿勢、課題の作品や発表内容を総合的に評価する。

## 授業計画

1. 造形ゼミオリエンテーション 一春期課題の発表と共有一	16. 後期オリエンテーション 一卒業制作概要説明一
2. 春期課題絵本を参考に① 絵本の構想を考える	17. 舞台美術装置ミニチュア制作一保育に活かす造形①説明、情報収集
3. 春期課題絵本を参考に② 絵本の構想 下絵の制作	18. 舞台美術装置ミニチュア制作一保育に活かす造形②下絵と材料準備
4. 春期課題絵本を参考に③ 下絵の制作	19. 舞台美術装置ミニチュア制作一保育に活かす造形③背景制作
5. 春期課題絵本を参考に④ 下絵の制作、着色、表紙の構想	20. 舞台美術装置ミニチュア制作一保育に活かす造形④背景制作
6. 春期課題絵本を参考に⑤ 着色、表紙の制作	21. 舞台美術装置ミニチュア制作一保育に活かす造形⑤道具制作
7. 春期課題絵本を参考に⑥ 表紙の制作	22. 舞台美術装置ミニチュア制作一保育に活かす造形⑥道具制作
8. 春期課題絵本を参考に⑦ 裏表紙の制作	23. 一回生への実習報告会
9. 春期課題絵本を参考に⑧ 裏表紙の制作	24. 舞台美術装置ミニチュア制作一保育に活かす造形の仕上げ
10. 春期課題絵本を参考に⑨ 完成と講評会	25. 舞台美術装置ミニチュア制作一保育に活かす造形⑧完成・撮影準備
11. 子どもと楽しむ素材の研究②(ゼミナールⅠに続いて)	26. 舞台美術装置ミニチュア制作一保育に活かす造形⑨撮影
12. 夏期課題説明一卒業制作に向けて一	27. 舞台美術装置ミニチュア制作一保育に活かす造形⑩講評会、まとめ
13. グループワーク、発表に向けての課題設定①	28. 舞台美術装置ミニチュア制作一保育に活かす造形 11 振り返り
14. グループワーク、発表に向けての準備②	29. 卒業制作への最終準備
15. グループワーク、発表に向けての完成③	30. 卒業発表会、振り返り、まとめ

<b>[教科書]</b>	<b>[参考書]</b>
必要に応じてプリント資料を配布する。 購入の画材一式	

## アクティブラーニングへの取り組み

<input type="radio"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> 反転授業	<input type="radio"/> ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> グループワーク
<input type="radio"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="radio"/> 実習、フィールドワーク	<input type="radio"/> 双方向アンケート	<input type="radio"/> その他:

## 実務経験

小中学校の図画工作・美術と併設の特別支援学級の美術(非常勤講師・常勤講師)、社会人向けの生涯学習(木版画教室)講師



ゼミナールⅡ

講義/演習/実技実習・単位数・回数

演・2単位・30回

[学修準備時間 30]

教員 寄 ゆかり	年次・学期 2年・通	関連資格・必修/選択 [保必]	ディプロマポリシー(DP)との関連 ○ DP1:情熱・使命感 ◎ DP3:探究・主体性 ○ DP2:知識・技術 ○ DP4:人権・共感
-------------	---------------	--------------------	---

授業の目的・内容

【授業の目的と概要】

本ゼミでは、「音楽表現 アンサンブル」ゼミとして音楽表現の様々なあり方を考える。1 回生後期から、実際に各自が体験した音楽表現のあり方を、どう感じ、どう追求していくのか。文献研究や、各自の「曲を聴いて感じたこと」「人の心に響く演奏をするには」から得られた表現力をもとに、考える。また「人の心に響く演奏」を作り上げるための舞台設定、脚本等も研究し、最終は自分たちで卒業発表会を計画、立案、実施を行うことを卒業課題とする。

【到達目標】

- 1) 提示された課題曲演奏(歌、合奏など)に、積極的に取り組める。
- 2) 演奏の幅を広げる(楽器の種類、音域、ジャンルなど)努力ができる。
- 3) 様々な音楽表現を追求することにより、幼児教育の場での音楽表現の方法を考えることができる。
- 4) 舞台発表のための必要な知識(設定、装置、背景、構成等)を習得するための学習姿勢がある。
- 5) 卒業発表会の計画立案から実施までをチームで協力しながらできる。

履修のルール

【履修のルール】

・音楽表現、特に合奏や合唱を行うためには、チームでの「調和」が重要です。演奏力だけではなく、自分が表現できる方法を身につける姿勢を持って、授業に臨んでください。

【予習・復習の方法「自主学习ガイド」】

事前に提示された課題については、必ず予習(曲の場合は練習)しておくこと。また卒業発表会には、ゼミ生各自が「自分たちで作る」という意識と自覚を持って、進めてください。

【課題に対するフィードバックの方法】

共に向上させられるよう、課題が出た場合にその場で指導する。  
【オフィスアワー】: (火)(水)(木)(金)の在室時

評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	・各授業での課題と課題追求に取り組む姿勢、課題の達成度、チームでの曲への取り組み協力度、卒業発表会に関する計画から発表までのあらゆる面での取り組み姿勢など総合的に判断する。

授業計画

1. 春期課題「自分のお勧め曲」パワポプレゼンテーション(個人)発表①	16. 卒業発表会に向けて①(舞台に必要な仕事とは)
2. 春期課題プレゼンテーション(個人・グループ演奏)発表②	17. 卒業発表会に向けて②(チームでの役割)
3. プレゼンテーション発表から感じたことディスカッション	18. 卒業発表会に向けて③(演奏形態と選曲)/学園祭演奏練習
4. 様々な演奏形態の紹介①(春期課題で探求したもの)	19. 卒業発表会に向けて④(選曲の吟味)/学園祭演奏練習
5. 様々な演奏形態の紹介②(春期課題で探求したものを自分たちに置き換える)	20. 卒業発表会に向けて⑤(担当者別ディスカッション)/学園祭演奏練習
6. 様々な演奏形態の紹介③(春期課題で探求したものを参考に新しい形態を考える)	21. 卒業発表会に向けて⑥/学園祭演奏練習
7. 音楽で自分を活かせる～選曲のための環境を考える～	22. 卒業発表会～構成をもとに舞台を作り上げる～各セクション担当決め
8. グループで演奏(合唱、合奏)形態を考える①～選曲～	23. 卒業発表会への取り組み①舞台構成の検討
9. グループで演奏(合唱、合奏)形態を考える②～演奏～	24. 卒業発表会への取り組み②舞台のイメージ共有
10. グループで演奏(合唱、合奏)形態を考える③～練習の方法～	25. 卒業発表会への取り組み③イメージに沿った楽器構成の検討
11. グループで演奏(合唱、合奏)形態を考える④～合わせる～	26. 卒業発表会への取り組み④構成に沿った楽曲選曲
12. グループで演奏(合唱、合奏)形態を考える⑤～息を合わせる～	27. 卒業発表会への取り組み⑤演奏練習、各担当パートによる
13. グループで演奏(合唱、合奏)形態を考える⑥～曲のジャンルを考える～	28. 卒業発表会への取り組み⑥演奏を極めることによる自分の成長を見つめる
14. ゼミ演奏を仕上げる①～人に聴かせられる演奏に～	29. 卒業発表会への取り組み⑦演奏の喜びとは
15. ゼミ演奏を仕上げる②～振り返りと改善～	30. 卒業発表会、振り返り、まとめ

【教科書】

【参考書】

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	その他:

実務経験

音楽教室においては、3歳児から70代までピアノ、エレクトーンでの鍵盤指導及び管楽器、打楽器指導を中心としたアンサンブル教育も行う。また現役保育者に対する保育内容に関する実技講習などの研修を多く行っている。

# キャリアデザイン I

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数

講・2 単位・15 回

[学修準備時間 60]

教員

阪田 啓代

年次・学期

1 年・通\*

関連資格・必修/選択 ディプロマポリシー(DP)との関連

◎ DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性  
- DP2: 知識・技術 - DP4:人権・共感

## 授業の目的・内容

### [授業の目的と概要]

本講義では、職業に関する基本的な情報・知識を学び、社会人として必要なスキルを身に付けることを目的とする。また、幼児教育をはじめ様々な分野で活躍する職業人の話や身近な職業人へのインタビュー等を通して、将来の進路選択や働くことの意味について考える。雇用形態の多様化が進み、仕事を取り巻く環境が大きく変わりつつあるなかで、自分の将来を描ける職業観を探究しよう。

### [到達目標]

・現代社会に関心を持ち、職業や労働についての情報や知識を理解する。  
・職業イメージを持ち、卒業後の進路について具体的に考えられる。  
・社会人としての基礎的な素養を身に付ける。

## 履修のルール

### [履修のルール]

### [予習・復習の方法「自主学习ガイド」]

・予習、復習については授業内で指示する。

### [課題に対するフィードバックの方法]

課題(小テストやレポート等)については、授業のなかで解説、講評を行う。  
【オフィスアワー】:月～金 実習・キャリアサポート室で随時

## 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	50	筆記試験を行う。
期末レポート	0	
その他	50	授業への取り組み状況、授業内課題及び職業人へのインタビュー課題などで総合的に評価する。

## 授業計画

- |                          |                                    |
|--------------------------|------------------------------------|
| 1. オリエンテーション/キャリアとは何か    | 9. 非正規雇用の現状と課題                     |
| 2. 卒業後のキャリアをイメージする-幼稚園等- | 10. 採用試験の概略と模擬体験                   |
| 3. 卒業後のキャリアをイメージする-福祉施設- | 11. 「働くこと」について考える(職業人へのインタビュー結果より) |
| 4. 卒業後のキャリアをイメージする-企業-   | 12. 進路選択とキャリア理論                    |
| 5. ソーシャルスキルを身に付ける        | 13. 自己分析・自己紹介書の作成①自己の棚卸し・自分の強みと弱み  |
| 6. 働くことの基礎知識-契約と労働条件-    | 14. 自己分析・自己紹介書の作成②キャリア・アンカー        |
| 7. 働くことの基礎知識-法人・求人先理解-   | 15. まとめ-春休中の進路・就職活動計画を考える          |
| 8. 働くことの基礎知識-様々な雇用形態-    |                                    |

### [教科書]

・プリント教材を配布  
・進路就職ハンドブック

### [参考書]

## アクティブラーニングへの取り組み

□ PBL(課題解決型学習)	□ 反転授業	□ ディスカッション、ディベート	□ グループワーク
□ 学生によるプレゼンテーション	○ □ 実習、フィールドワーク	□ 双方向アンケート	□ その他:

## 実務経験

2 級キャリアコンサルティング技能士、国家資格キャリアコンサルタントとして、本学の進路指導を担当する部署で学生のキャリア支援を行っている。

# キャリアデザインII

講義/演習/実技実習 ・ 単位数 ・ 回数  
講・2単位・15回

[学修準備時間 60]

教員	年次・学期	関連資格・必修/選択	ディプロマポリシー(DP)との関連
阪田 啓代	2年・通*		◎ DP1:情熱・使命感 - DP3:探究・主体性 - DP2:知識・技術 - DP4:人権・共感

## 授業の目的・内容

<b>[授業の目的と概要]</b>	<b>[到達目標]</b>
「就職活動」とは単に働く会社(園、施設)を選ぶことではない。「正解」がない進路選択を、自らの生き方に照らし決断し決定するまでの探究的な活動である。本講義では、就職活動の具体的な準備と実践、様々な分野で活躍しているゲスト講師の話等を通して、生涯を通じてのキャリア形成という視点を持ちながら、進路を決定する力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後の進路を考え、具体的な活動計画をたて、実践する。</li> <li>進路決定および決定後の活動について、自身の考えを整理し相談できる。</li> <li>社会人として働くために必要な力とは何か、具体的に考え身に付ける。</li> </ul>

## 履修のルール

<b>[履修のルール]</b>	<b>[予習・復習の方法「自主学习ガイド」]</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>予習、復習については授業内で指示する。</li> </ul>
	<b>[課題に対するフィードバックの方法]</b>
	課題(確認テストやレポート等)については、適宜授業の中で解説、講評する。 [オフィスアワー]:月～金 実習・キャリアサポート室にて随時

## 評価基準・評価方法

種類	割合(100%)	基準・方法
期末試験	0	
期末レポート	0	
その他	100	授業への取り組み姿勢、授業内課題、進学・就職活動の報告レポートなどで総合的に評価する。

## 授業計画

1. オリエンテーション/就職活動とは何か	9. 卒業後のキャリア形成①仕事を継続すること
2. 求人動向と就職活動への取り組み方(就職フェア・説明会など)	10. 卒業後のキャリア形成②結婚・出産という転機
3. 受験先の選択-卒業生の就職活動-	11. 卒業後のキャリア形成③同業他社・異業種への転職という転機
4. 契約と労働条件	12. 研修の意味と心構え
5. 実務実践①求人先理解とアプローチの仕方	13. 内定辞退・早期退職防止のために-新卒社員に必要な力-
6. 実務実践②応募書類の作成・志望動機と考え方と伝え方	14. 雇用に関する権利と義務-労基法-
7. 実務実践③採用側の求める人材	15. 私のキャリアデザイン
8. 実務実践④採用試験の模擬体験	

<b>[教科書]</b>	<b>[参考書]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>プリント教材を配布</li> <li>進路就職ハンドブック</li> </ul>	

## アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

## 実務経験

2級キャリアコンサルティング技能士、国家資格キャリアコンサルタントとして、本学の進路指導を担当する部署で学生のキャリア支援を行っている。

講義要綱  
幼児教育科  
2年次